evol

電動アシスト自転車

取扱説明書

品名	型番
evol Beleg	EBE66A



このたびは、弊社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みの上、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」（16 ～ 21 ページ）を必ずお読みください。
- 保証書のお買い上げ日・販売店名などの記入をお確かめの上、取扱説明書と共に大切に保管してください。
- お子様がお使いになる場合は、保護者の方がこの説明書を必ずお読み頂き、正しい乗り方をご指導ください。

★お願い★

- この自転車は、通勤、通学、買い物等の日常生活用として設計されており、配達等の業務用での使用 (配達、運搬業務等) を目的とした設計ではありません。
- 安全のため、ヘルメットの着用をお勧めします。
- 万が一の事故に備えて、対人、対物賠償保険に加入されることをお勧めします。
- 必ず、盗難防止のため、販売店で防犯登録の申請手続きを行ってください。
- 交通安全のルールを守って安全に走行してください。

もくじ

01 --- もくじ
02 --- 電動アシストについて
03 --- 特徴
04 --- 自転車各部の名称及び付属品
05 --- 乗る前の注意
06 --- 正しい使用条件
07-09 --- コントロールディスプレイの名称 / 操作方法
10 --- エラーコード
11 --- バッテリーの各部説明
12-13 --- 充電のしかた
14 --- リチウムイオン電池のリサイクルについて
14 --- 洗車・水濡れに関する注意 / 型式認定済み標章 (TS マーク) について
15 --- バッテリーについて
16 --- 安全上のご注意 / 警告表示について
17-19 --- 警告事項
20-21 --- 注意事項
21 --- 前輪のロックに関する注意
22 -24 --- 乗車前の点検 〜一般車編〜
25 --- 正しい使用条件 〜一般車編〜
26 -31 --- 主な各部の取扱いと調整 〜一般車編〜
32 -33 --- スポーティ車 (マウンテンバイクルック車など) の調整・取扱い
34 --- 注油について
35 -36 --- 交通ルールを守りましょう
37 --- 点検・チェックリスト
38 --- 品質保証規定
39 --- 一般自転車の各部名称
40 --- MEMO
41 --- BAA マーク付き車両について
42-43 --- 安全利用五則

電動アシスト自転車について

本製品は、特別に設計された電動駆動ユニットを装備し、走行時に電動駆動動力が踏力を助けてくれる電動アシスト自転車です。一般の自転車と同じように扱える構造になっておりますが、電動アシスト自転車の使用方法を使用前によくお読みの上、正しくお使いください。

・電動駆動力により楽に走行できます。

上り坂や荷物を積んだ時など、電動駆動力の力で楽に走行できます。
踏力や積載荷物の重量、道路状況などにより、楽になる度合は個人差があります。
時速 0 ㎞ ～ 10 ㎞までは踏力 1 に対して最大 2 の力で踏力補助をする事ができ、
10 ㎞を超えると徐々に踏力補助力を弱めていき、時速 24 ㎞になると補助力が 0 になります。

・バッテリーが切れた場合でも、通常の自転車として走行可能です。

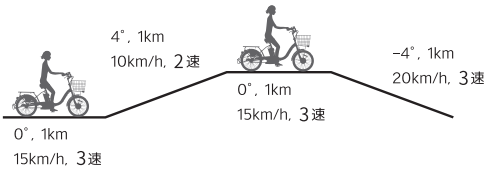
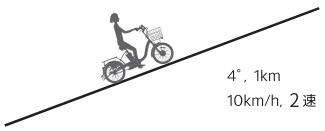
お出かけ先でバッテリーが切れてしまったような場合でも、通常の自転車として同じ様に走行する事が可能です。

・運転免許証は不要です。

本電動アシスト自転車は運転免許証なしで乗る事ができます。

※盗難防止のためワイヤー錠などで施錠することをお勧めします。

仕様	寸法	自転車の長さ	1895 mm	原動機	駆動方式	ハブモーター前輪駆動方式
		自転車の幅	590 mm		種別	ブラシレスDCモーター
		ホイールベース	1159.8 mm		最高出力	250 w
		サドル地上高	760mm ～ 890mm	電池	種別	リチウムイオン バッテリー
		タイヤの呼び	26 × 1 3/8		公称電圧	36 V
		車両重量	約 26.5 kg		定格容量	7.8Ah / 280Wh
	充電器	充電時間	約 3.5 時間		バッテリー寿命	充電回数 約 500 回
		電源	AC100 V - 240 V (50 Hz～60 Hz)			

		モード	走行距離	走行パターン
性能	一充電当たりの走行距離	エコ	約 76.0 km	標準パターン 
		平坦	約 46.0 km	
		坂道	約 38.0 km	
		エコ	約 27.0 km	4°登坂連続パターン 
		平坦	約 15.0 km	
		坂道	約 12.0 km	

※1　JIS D 9115:2018 による測定

- 走行距離は積載物の重量（乗員含む）、路面状況、気温、バッテリーの劣化状況などの条件の変化により大きく差が出ます。
- バッテリーは消耗品です。バッテリーの寿命は※1 の走行状況を元に計算されています。初回充電からバッテリーの劣化は始まります。約 500 回の充放電では容量が約 70% 以下になり、走行距離が著しく短くなる場合があります。

特徴

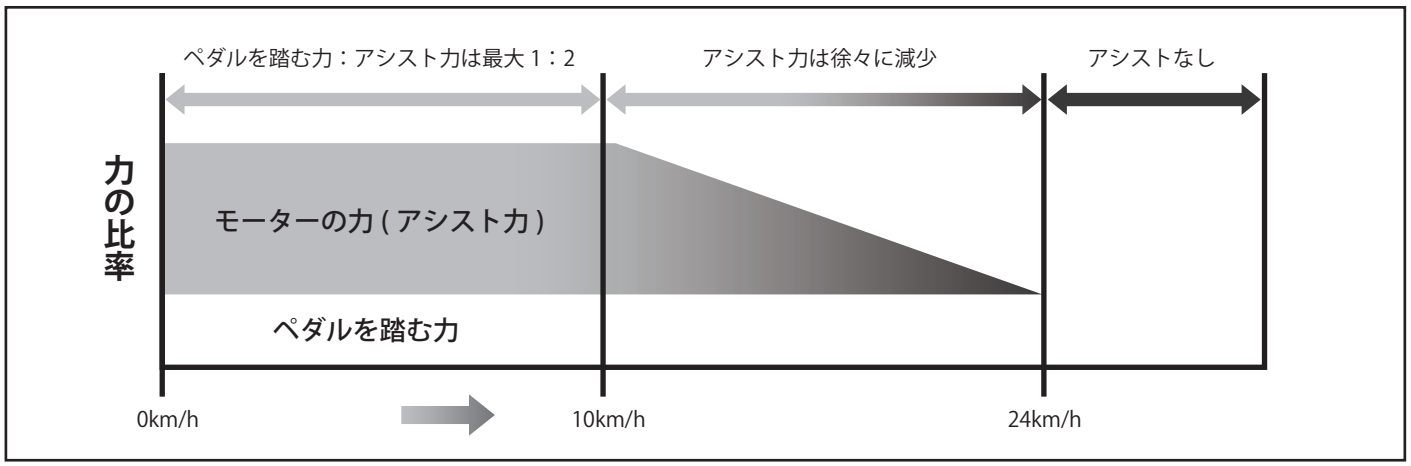
この自転車は電動アシスト付き自転車です。普通の自転車とは異なった部分がありますので、本書をよくお読みいただき安全・快適にお乗りください。

★ お知らせ ★

※この自転車は運転免許証は必要ありません。

■ モータの力 (アシスト力) で、らくらく走行

ペダルを一定以上の力で踏むとアシスト力が働くので、普通の自転車よりも軽く踏むだけで走行することができます。



★ お知らせ ★

- アシスト力とアシストが働く速度の範囲は、アシストモードや変速位置により異なります。
- 楽になる度合いは、ペダルを踏む力や道路状況、乗員の体格などにより異なります。
- 次の場合は、アシスト力が働きません。
  - ・走行速度２４Km/h 以上の時。
  - ・ペダルを踏む力が弱い。又はペダルに負荷をかけない時。
  - ・バッテリー切れの時。
  - ・アシストパワーレベルが「0」(アシストがオフ) の時。

自転車各部の名称及び付属品

車体



番号	各部名称	番号	各部名称	番号	各部名称	番号	各部名称
1	コントロールディスプレイ	11	スポーク	21	ドロヨケ	31	バッテリー
2	ベル	12	ハブモーター（スピードセンサー）	22	サイドリフレクタ	32	ブレーキワイヤー
3	ハンドルバー	13	タイヤバルブ	23	リヤリフレクタ	33	電子コード
4	ブレーキレバー	14	シフトレバー	24	スタンド	34	前ホーク
5	ハンドルステム	15	グリップ	25	変速機	35	トルクセンサー
6	バスケット	16	シートレバー	26	チェーンケース	36	コントローラー（ユニット）
7	ライト/フロントリフレクタ	17	シートポスト	27	チェーン		
8	前ブレーキ	18	サドル	28	クランク		
9	タイヤ	19	リング錠	29	ペダル		
10	リム	20	リヤキャリア	30	フレーム		

【付属品】専用充電器

付属のバッテリー以外には使用しないでください。



⚠ 乗る前の注意
警告

■正しい乗車姿勢がとれますか

サドルとハンドルの高さを調整して
ください。
（実際に乗って確認してください。）



・円滑なペダリングができるか
・ベル、ブレーキ及びギヤチェンジが
　確実に操作できるか
・ハンドル操作が容易にできるか

■必ず点検をしてください

乗る前には必ず点検してください。
点検については本書をよく読んで点検して
ください。分からない点は、販売店に相談
してください。



■安全な服装で

車輪に巻き込まれやすい服装はしない。

・ズボンのすそ汚れやチェーンへの巻込みを防止
　するためにズボンはズボンバンドで止めてください。
・靴はかかとの低い滑らかなものをはいてください。
・もしもの転倒時に備えヘルメットを着用してください。



■乗る練習は

電動アシスト自転車に馴れるまでは、空き地や
公園などの安全な場所で練習しましょう。
（よく練習してから一般道路でお乗りください。）



■初期点検及び定期点検は

購入後二ヶ月以内は、ネジのなじみなどの影響でゆるみが生じ
やすいので二カ月以内に初期点検を受けてください。また、その後
一年ごと及び異常を感じた場合には、点検を受けてください。（有料）

**指示　定期点検、整備を受けていないと保証の対象外と
なることがあります。**

⚠ 乗る前の点検
警告

※点検ができないお子様のために必ず保護者の方が行ってください。

■ 日常点検と調整のポイント

- 安全に乗っていただくために、乗車前に次の点検を実施してください。
- 点検、調整後は、試乗を行ってください。
- 異常があった時や不明な点がある時は、乗車せず販売店にご相談ください。



指示

- **ブレーキワイヤーは異常がなくても一年に一回は交換してください。**
- **タイヤは接地面のトレッド (タイヤの山) が一部でもなくなる前に交換してください。**
- **ブレーキゴムは制動面の溝が残り 1.0 ㎜になる前に交換してください。**

※イラスト及び写真等はイメージですので実際の商品とは異なる場合があります。

⚠ 正しい使用条件
警告

■ 荷物の積載について

この自転車にはフロントバスケットが装着されております。
こちらのバスケットに最大積載 5kg までの荷物を積載することが可能です。
5kg 以内の重量であっても、運転やハンドル操作などに影響があり、
著しく走行の妨げになる場合 (※) は積載をお控えください。

(※高さが視界を妨げる物や、積載物がバスケットから大きくはみ出す場合、
ブレーキワイヤーなどに干渉する場合など)



なお、この自転車にリヤキャリアも装着されております。
容量クラスは「クラスＳ」で約 30kg までの積載が可能です。
幼児用座席の取付けも可能です。

荷物の積載についての詳細は P23 の「最大積載重量」の項をご確認下さい。



■ 標準常用速度及び標準乗員体重

※スピードの出しすぎは危険ですので安全速度を守ってください。

	スポーツ車	シティ車	コンパクト車	実　用　車
常用速度㎞ / h	15 ～ 25	10 ～ 20	10 ～ 15	10 ～ 15
標準乗員体重kg	65	65	65	65

※コンパクト車は呼び (径)20 以下の車輪でコンパクト化を図った自転車です。

■ 標準適応身長

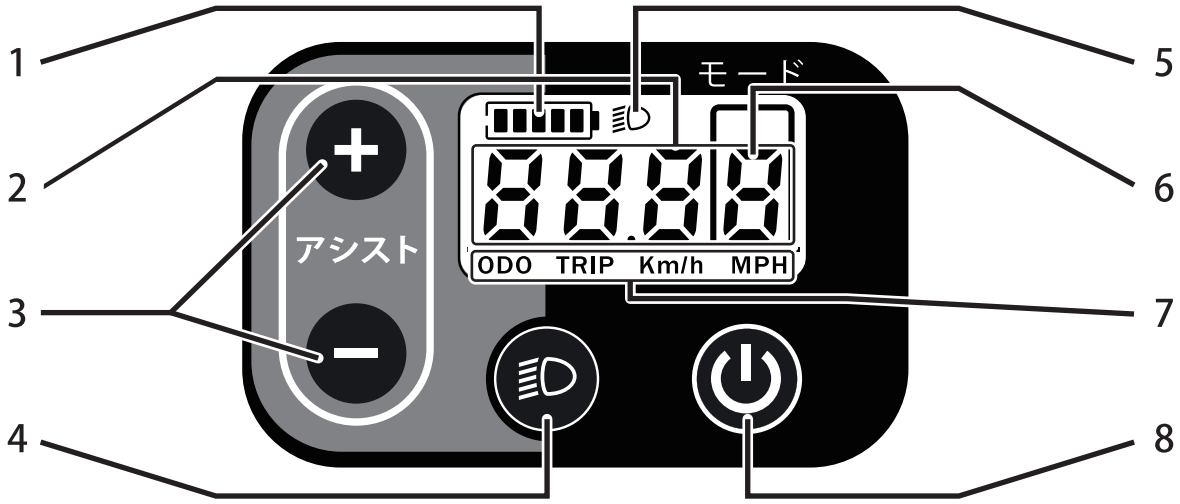
身長にあった自転車の調整は、サドルにまたがり両足先が地面に付くように調整する事が適当です。サドルの高さを調整しても両足先が地面に付かないものや、足の角度が窮屈になるような高さは正しい調整とはいえません。
下の表を参考にサドルの高さの調整目安にしてください。わからない場合は販売店にご相談ください。



サドル地上高さ (cm)	適正身長 (cm)	サドル地上高さ (cm)	適正身長 (cm)
46	98	74	144
50	105	78	150
54	111	82	157
58	118	86	163
62	124	90	170
66	131	94	176
70	137	98	183

サドルの高さ調整については、P24 の「サドルの調整」の項をご確認ください。

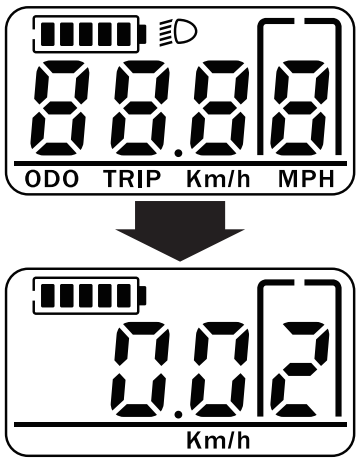
コントロールディスプレイの名称



番号	各部名称	番号	各部名称	番号	各部名称	番号	各部名称
1	バッテリー残量表示	2	速度/距離表示エリア	3	アシスト操作ボタン	4	ライトボタン
5	ライト点灯表示	6	アシストモード表示	7	速度/距離表示エリア	8	電源ON/OFFボタン

操作方法

1



画面表示
(全項目表示状態)

通常表示

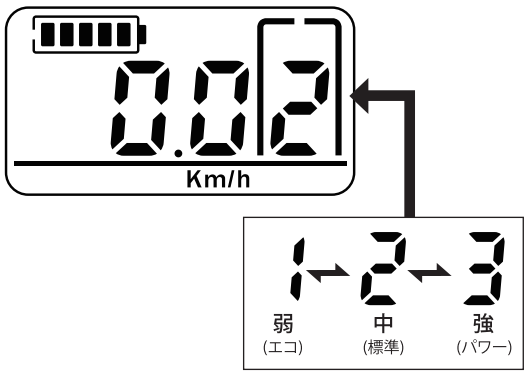
＜電源のON/OFF＞

バッテリー側の電源をONにする(P08参照)

⏻を約１秒押すと、画面のバックライトが光り液晶の全項目が一瞬表示されます。
その後、画面が通常表示に切り替わりましたらアシスト走行が可能となります。
再度⏻ボタンを約2秒押すと電源が切れます。

また、走行、操作を停止してから約5分経過すると自動的に電源がOFFになります。

2

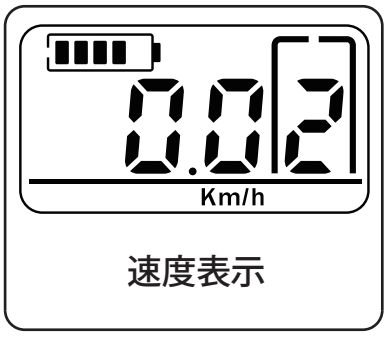


＜アシストモードの操作＞

アシスト操作ボタンの＋と－を押して、走行に適したレベルを選び安全に気をつけてアシスト走行をして下さい。
「1」から「3」になるにつれてアシスト力が強くなります。

電源をONにした時はアシストモードが前回終了した時と同じモードになります。

3 ＜表示の切替＞



速度表示

電源ONの状態でON/OFF(表示切替)ボタンを押すと、速度表示→ODO表示→TRIP→速度表示(以下ループ)と変わります。

・速度表示：現在の走行速度が表示されます。

・ODO(累積距離)表示：総走行距離が表示されます。（リセット不可）

・TRIP(積算距離)表示：リセット後からの走行距離が表示されます



ＯＤＯ(累積距離)



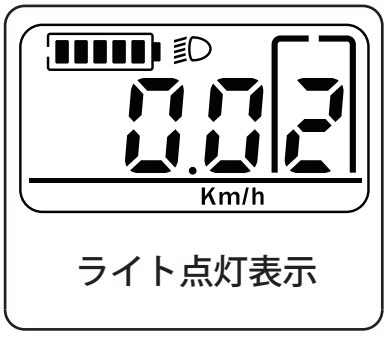
ＴＲＩＰ(積算距離)

※TRIP表示のリセット方法

TRIP表示中に ⊖ と ⏻ を約２秒間同時押しでリセットされます。

4 ＜ライトの操作＞

電源 ON の状態で 🔦 を押すと画面にライトのアイコンが表示され、画面のバックライト点灯と同時にライトが点灯します。
点灯中に 🔦 を押すとアイコンが消えライトが消灯します。



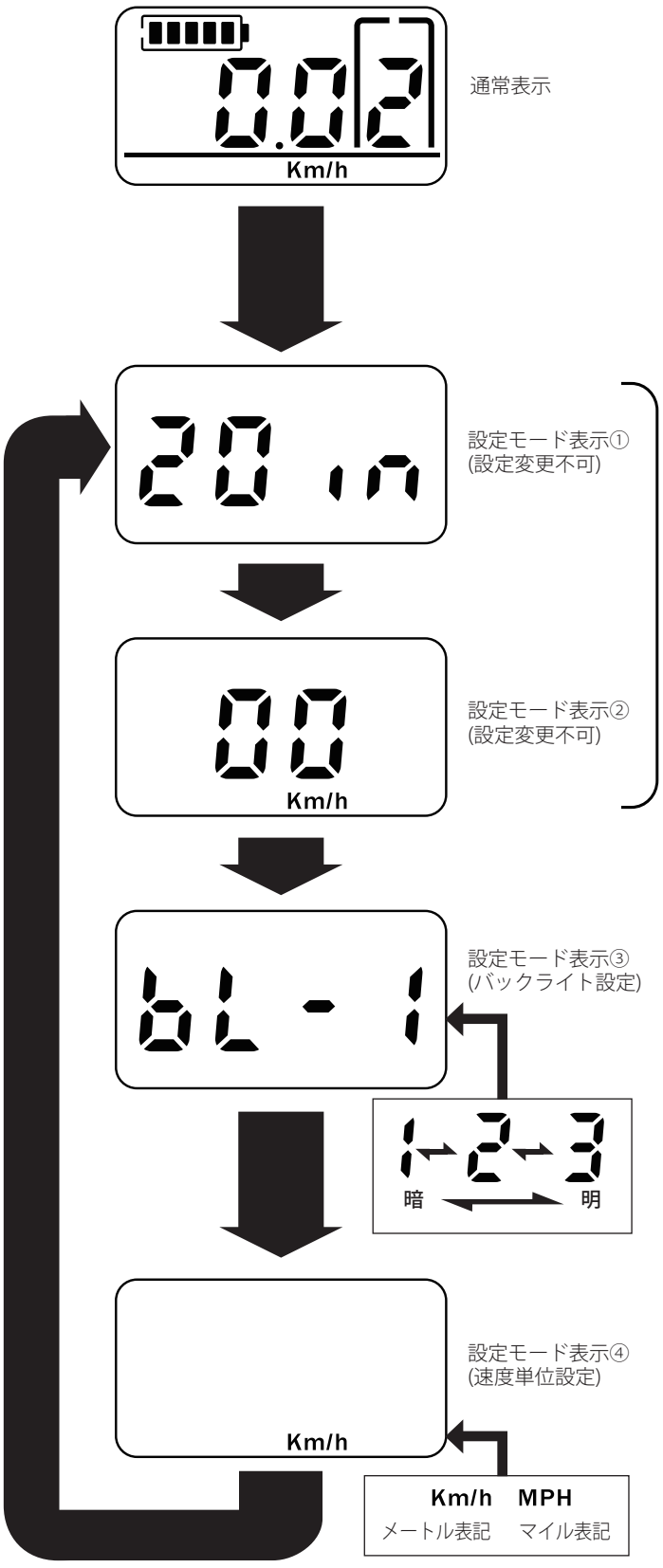
ライト点灯表示

※バッテリー側、及びコントロールディスプレイの電源がオンになっていないと、ライトの点灯は出来ません。

※点灯したままの状態で走行、操作などを行わない行わないと、約5分経過後に自動的に電源がOFFになります。

5

＜設定モードの操作方法＞



電源ONの状態で ＋ と － ボタンを同時に1秒程度押すと設定モードになります。

設定モードになりますと、表示が常に点滅します

⏻ を押すと設定モードが変わります。

通常表示に戻る際は ⏻ を約2秒間押してください。

※設定モード表示①と②は設定変更不可です。

表示③の時は画面のバックライトの明るさを調節できます。

アシスト操作ボタンの ＋ と － を押して、
好みの明るさを選んでください。

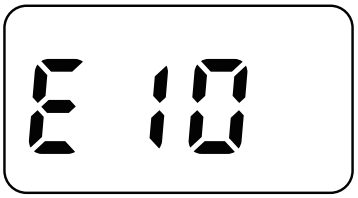
表示④の時は速度表示の時の単位をメートル表記(km/h)とマイル表記(MPH)の2つから設定できます。

アシスト操作ボタンの ＋ と － を押して、
単位を選択してください。

※操作をせずに約1分経過すると通常表示画面に戻ります。

操作方法

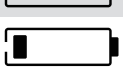
6 <エラーコード>

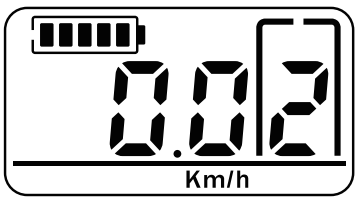


アシストに関する問題が発生した場合に、ディスプレイに左図の様なエラーコード(Eの右側2桁の数字)が表示されます。
エラーコードは下記の一覧の通りで、それぞれ異なる番号で表示されますので、番号と内容をご確認いただき、それぞれの方法でご対応をお願い致します。

エラーコード		説明	解決策
01	21	モーター過電流	モーターへの過電流が発生しています。修理が必要な可能性がありますので、ご購入の販売店様へご相談ください。
02	21	コントローラー過電流	コントローラーへの過電流が発生しています。修理が必要な可能性がありますので、ご購入の販売店様へご相談ください。
03	24	モーターのホール信号が異常	モーター内部の異常が発生しています。修理が必要な可能性がありますので、ご購入の販売店様へご相談ください。
04	25	ブレーキ異常	不明
05		コントローラーの温度異常	コントローラー部が高温になっておりますので、温度が下がるまでご使用をお控えください。状況が改善されないようであれば、ご購入の販売店様へご相談ください。
06		モーターの温度異常	モーター部が高温になっておりますので、温度が下がるまでご使用をお控えください。状況が改善されないようであれば、ご購入の販売店様へご相談ください。
08		ディスプレイの通信エラー	ディスプレイコード接続のエラーが考えられます。コードの接続をご確認いただき、それでも異常が改善されない場合は、ご購入の販売店様までご相談ください。
09		コントローラーの過電圧/電圧不足	コントローラー部への電圧異常の恐れがあります。自転車とバッテリーをご購入の販売店様までお持ちいただき、修理をご依頼ください。
20		電源ボタンの故障	電源ボタンの故障が考えられます。ご購入の販売店様までご相談ください。
30		通信エラー(ディスプレイまたはコントローラ)	ディスプレイ、またはコントローラーへ接続されているコード接続のエラーが考えられます。コードの接続をご確認いただき、それでも異常が改善されない場合は、ご購入の販売店様までご相談ください。
31	28	MCUエラー	コンピューターの故障かプログラムのエラーが考えられます。ご購入の販売店様までご相談ください。
36	28	トルクセンサー異常	トルクセンサーにエラーが出ています。ご購入の販売店様までご相談ください。
37	28	スピードセンサー異常	スピードセンサーにエラーが出ています。ご購入の販売店様までご相談ください。
38	28	温度センサーの故障	温度センサーにエラーが出ています。ご購入の販売店様までご相談ください。
40	28	電流センサーの異常ー	電流センサーにエラーが出ています。ご購入の販売店様までご相談ください。
41	28	ドライブ電圧エラー	ドライブ部分への電圧エラーが発生しています。ご購入の販売店様までご相談ください。
42	28	モータードライブ回路異常	モータードライブ関連の回路にエラーが出ています。ご購入の販売店様までご相談ください。
43	28	モータードライブ異常	モータードライブ自体にエラーが出ています。ご購入の販売店様までご相談ください。
60		MCU(コントローラー)の故障、 基準電圧の故障を表示	コントローラーの故障かプログラムのエラーが考えられます。ご購入の販売店様までご相談ください。
10		ハブシステムトルク信号	ハブモーターの異常、またはコード接続のエラーが考えられます。コードの接続をご確認いただき、それでも異常が改善されない場合は、ご購入の販売店様までご相談ください。

7 <バッテリー残量表示>

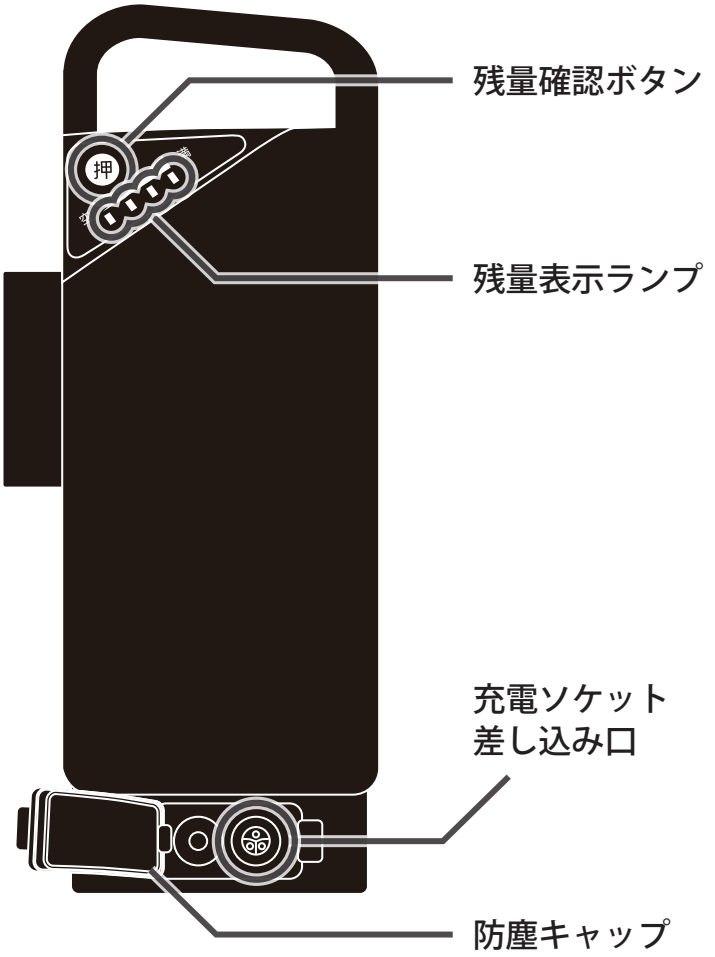
アイコン表示	目盛り	バッテリー残量目安
	5	75%-100%
	4	50%-75%
	3	30%-50%
	2	10%-30%
	1	5%-10%
	LOW	<5%



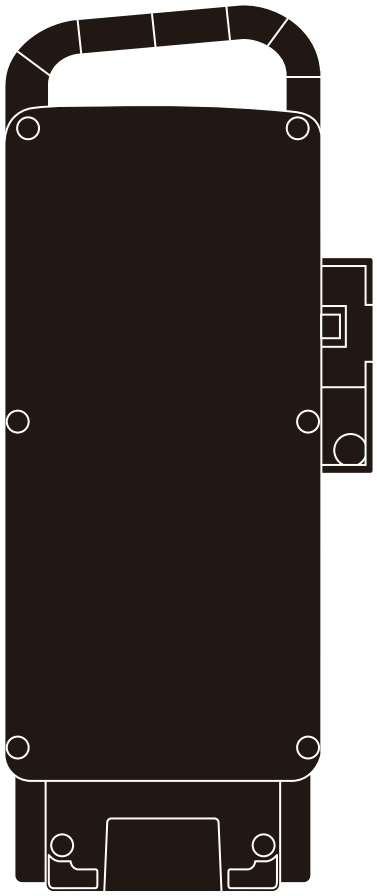
電源ONの状態で画面左上にバッテリー残量が表示されております。
バッテリー残量は左記のように表示されます。

バッテリーの各部説明

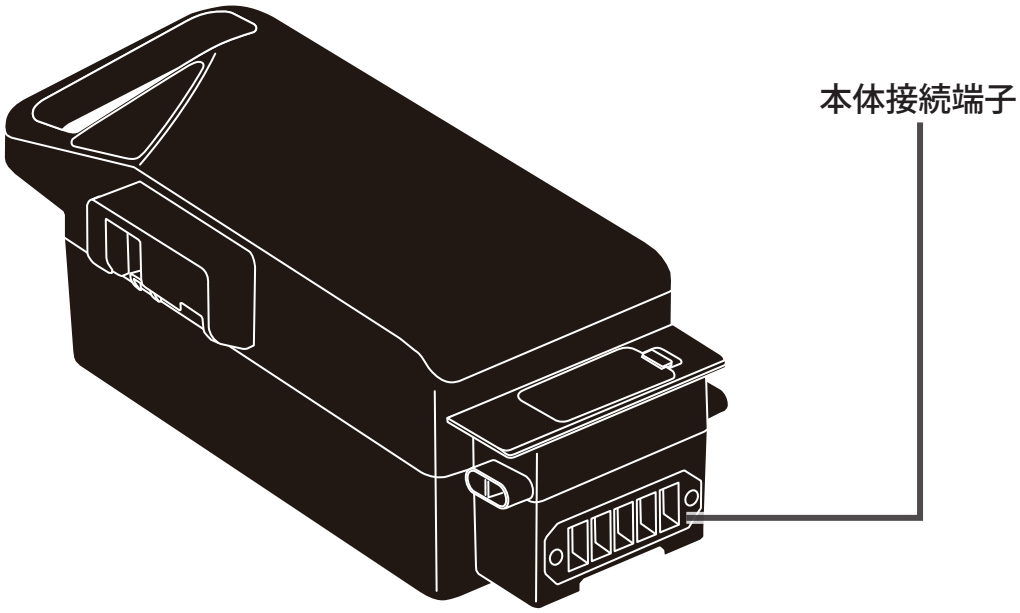
・左側面



・右側面

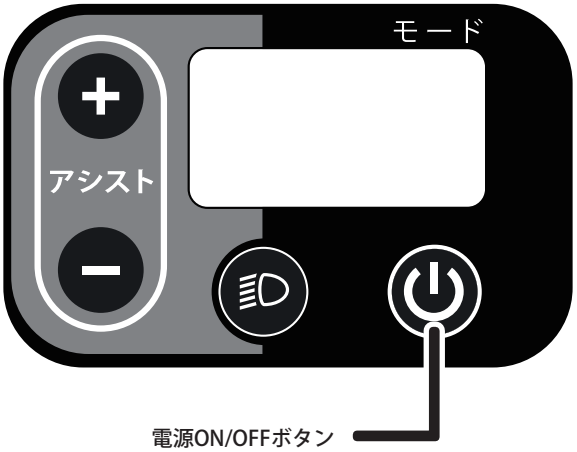


・底面



充電のしかた

1



＜充電の手順＞
～バッテリーを外す～

コントロールディスプレイの電源 ON/OFF
ボタンを押し、電源が切れていることを
確認する。
＜全表示消灯＞

2



後輪のリング錠をかけ、キーを引き抜いて下さい。
(リング錠とバッテリー盗難防止の鍵は共通です)

3

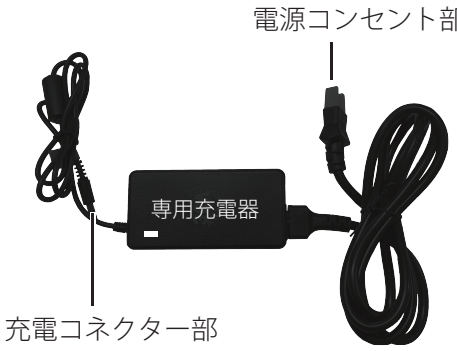




車体の左側面にあるバッテリーの盗難防止用の鍵穴にキーを差し込んで左に回すとバッテリーの施錠が外れます。

バッテリー本体を左側へ倒し上へ引き上げて取り外して下さい。

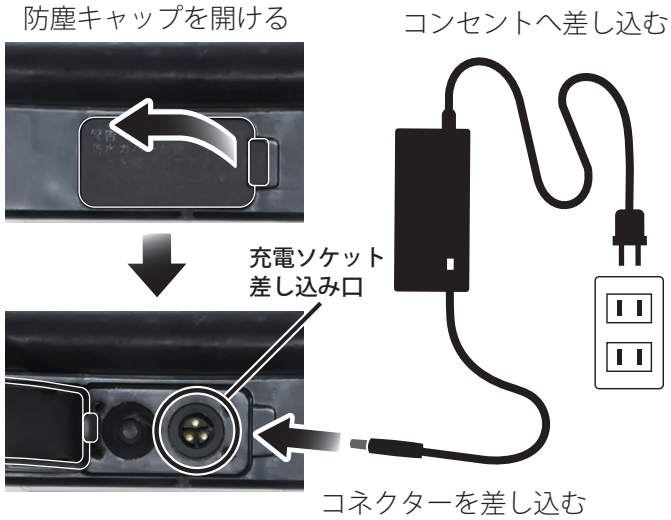
充電のしかた



＜充電の手順＞
～充電器につなぐ～

自転車からバッテリーをはずし、
専用充電器を用意してください。

4



屋内で充電して下さい。

専用充電器の充電コネクター部を
バッテリー充電コンセント部にしっかり
接続して下さい。

続いて専用充電器の電源コンセント部を
家庭用１００ボルトのコンセントに差し
込んでください。充電が始まります。

危険！
充電には必ず専用充電器を使ってください。
専用品では無い物で充電されますと、
発火や爆発を引き起こす原因となります。

5



充電を開始すると専用充電器の充電表示
ランプが赤く点灯します。
充電表示ランプが赤から緑に変われば
充電は完了です。



また、バッテリーの残量確認ボタンを押すと、
残量表示ランプが点灯しバッテリー本体で
残量を確認することができます。
満充電状態で緑のランプが４つ、残量ゼロの時
は赤のランプが１つ点灯します。

リチウムイオン電池のリサイクルについて



● この商品にはリチウムイオン電池を使用しています。
リチウムイオン電池又はこの商品を廃棄する場合はリチウムイオン電池を取り外して販売店または、リサイクル協力店へお持ちください。
環境保護と資源の有効活用をはかるため、電池の回収にご協力ください。

電池のリサイクルについて

● この商品に掲載している電池はリチウムバッテリーです。
この電池はリサイクル可能な貴重な資源です。リサイクルにご協力ください。

リサイクル協力店について

● 充電式電池の回収・リサイクル及びリサイクル協力店については、一般社団法人 JBRC のホームページをご参照ください。　http://www.jbrc.bet/hp/

洗車・水濡れに関する注意

● 電動アシスト自転車は水に濡れても使用できるよう設計されていますが、完全防水ではありません。

●洗車の際は、高圧洗浄機や強い水流を直接当てないでください。電装部品内部に水が入り、故障の原因となる場合があります。

●バッテリー、バッテリー端子、充電器接続部、操作パネル、モーター周辺などには、必要以上に水をかけないでください。

●洗車後は水分をよく拭き取り、十分に乾燥させてからご使用ください。

●濡れた状態でのバッテリーの着脱・充電は避けてください。

●異常な動作、表示不良、異音などがある場合は使用を中止し、販売店またはメーカーにご相談ください。

型式認定済み標章 (TS マーク) について

本製品には、電動アシスト自転車として所定の基準に適合した型式であることを示す「型式認定済み標章（型式認定の TS マーク）」が表示されています。

※この標章は、自転車安全整備士による点検・整備を受けたことを示す「TS マーク」とは異なります。

標章を剥がしたり、他の自転車へ貼り替えたりしないでください。また、改造や指定外部品の使用は、基準に適合しなくなる場合があります。

バッテリーについて

バッテリーは電動アシスト自転車のペダルアシストをするうえで重要な部品です。

バッテリー（リチウムイオン電池）の特性について

- リチウムイオン電池は高性能充電式電池の一種で充電と放電を繰返し使用できる優れた電池です。
- バッテリーの寿命は気温・使用状態・充電の仕方などによって異なります。
- 充電回数の増加に伴い１回の充電容量が少なくなります。
- 長期間使用せず保管すると自己放電によりバッテリー残量が次第に少なくなります。
- バッテリー保護の為、満充電後の再充電はしないでください。
- 冬季（約５℃以下）や寒い環境では、充電１回当たりの走行距離が短くなります。
  これはバッテリーの特性です。気温が高くなると走行距離はもとに戻ります。
- 夏季や熱い環境では
  ・バッテリーの内部温度が高いときに充電しようとすると、充電できないときがあります。
  ・バッテリーの温度が高いと、システム保護のためにアシスト力が低下することがあります。
  ・バッテリーの周辺温度が高いと、充電に時間がかかることがあります。
  適正な温度（５℃以上４０℃以下）になれば回復します。

バッテリー交換の目安 (バッテリーには寿命が有ります)

- バッテリーの交換は有料です。
  バッテリーの交換時期は、使用状況、充電のしかたなどにより異なりますが満充電後の走行距離が新品時より、著しく短く（約半分以下）なった時が交換時期です。
- バッテリー交換時期の目安
  バッテリー交換時期の目安は、約５００回の充電 / 放電で、使用期間は約１年半前後が目安です。これは、ご使用や保管の状況等により、５００回未満の場合でも寿命（新品の約 70% 以下の容量）になる場合があります。

※冬季はバッテリーの特性上、走行できる距離が短くなります。また、ペダルを強く踏み込む状態で走行する機会が多かったり、高温になる駐輪場でバッテリーを保管すると、通常より少ない充電回数や短い期間でバッテリーが消耗し、寿命となる場合があります。
※バッテリーは消耗品です。「バッテリー交換の目安」と保証期間は関係ありません。
※ご不明な点がありましたら、販売店にご相談ください。

長期間 (１ヶ月以上) 保管する時のバッテリーの取扱い方法

- 電動アシスト自転車からバッテリーを取外し、満充電してから保管して下さい。
  保管場所は気温１８℃～２８℃の範囲の場所で保管してください。
- バッテリーの劣化を抑えるため、最低 3 カ月に 1 度は 2 時間程度の充電をしてください。
- バッテリーの残量表示ボタンを押した時に LED ランプが点灯しない場合は充電してください。
  再充電ができない場合はバッテリーが劣化し寿命となる可能性があります。
- 長期間保管後に再使用する場合、予めバッテリー残量を確認し、不足している場合、必ず充電してご使用ください。
  ※バッテリー残量がない状態での長期保管は、早期劣化の原因になります。

安全上のご注意

自転車共通取扱い説明書

これより先の頁は全車種共通取扱い説明書となっておりますのでお買い上げの自転車には当てはまらない説明や、ここまでに説明した部分と内容が重複している箇所も含まれております。

・間違った取扱いや調整は事故につながる恐れがありますので、
警告・禁止・注意・強制事項を必ず守ってください。

・乗車前の「日常点検」と「２か月以内・１年ごとの定期点検」を
必ず実行してください。

・取扱いがわからない時は販売店にご相談ください。

警告表示について

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守り頂くことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	この表示の欄は、「障害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守り頂く内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です。）

禁止	道路交通法による禁止行為、またはしてはいけない内容です。
強制	使用者に必ず実行していただく「指示」内容です。

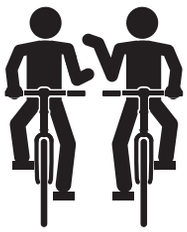
※図面、及び内容はイメージですので実際の商品とは異なる場合があります。

⚠ 警告事項

禁止　並走の禁止

2 台以上で並んで走行すると、交通の妨げになるだけでなく、接触事故ケガの恐れがあり、大変危険です。走行する際は、一列に並んで走行してください。

※ただし並列可の標識がある場所は除く。



禁止　手やハンドルに荷物を引っかけたりペットをつながない

荷物やヒモが車輪に巻き込まれたり、バランスを崩して転倒し、怪我の恐れがあります。

荷物はキャリア（荷台）やバスケットに積んでください。



禁止　荷物を積み過ぎない

荷物を積む場合は規定の大きさ、重量を守り、荷物が転倒しないように、ヒモ等でしっかりと固定してください。



※幼児車には荷物を積まないでください。

禁止　走行以外のことに使用しない

自転車を踏み台替わり等に使用しないでください。
転倒によるケガの恐れがあります。



禁止　リフレクターは汚れていたり破損したまま乗らない　また、取外して乗らない

テールランプ及びリフレクターは後方の車両からの確認をする上で大変重要です。汚れや損傷のない状態でご使用ください。
破損した場合は、すぐに交換してください。交換する際は、橙色又は、赤色のものを使用し、反射面の傾きは進行方向垂直に対して上下左右 5 度未満になるようにしっかり固定してください。

禁止　スポークの間に固形物を入れて走らない

固形物によって車輪がロックし、転倒事故につながる恐れがあります。
回転部分には絶対に物を入れないでください。



禁止　異常がある時は乗らない

点検せず異常のあるまま走行すると事故や転倒による怪我の恐れがあります。

異常を発見したら販売店にご相談ください。
変形、ひび割れ等、異常のある部品は必ず交換してください。曲がりを直しての再使用は破損の原因になりますので、絶対にしないでください。
※衝突したとき前ホークが曲がる事によりショックを吸収し、乗員の怪我を防止する役目をもっています。



禁止　視界の悪いときは乗らない

見通しが悪いと、衝突や転倒の恐れがあります。このような場合は、押して歩いてください。



禁止　合図をするとき以外ハンドルから手を離さない

危険回避などの急な操作ができずに衝突や転倒の恐れがあります。雨の時に傘をさして片手運転等はしないでください。



禁止　幼児をチャイルドシート（幼児座席）に乗せたまま放置しない

自転車が倒れ、怪我をする恐れがあります。



⚠ 警告事項

禁止　二人以上で乗ったりアクロバット的な乗り方はしない

二人乗りやアクロバット的な乗り方は
大変危険ですので絶対にしないでください。



禁止　前カゴに直接ペットを乗せない

ペットが急にカゴから飛び出し大変危険です。
ペット専用バッグ等を使用して乗せるように
してください。



禁止　乗車中の携帯電話は禁止

ヘッドホン、イヤホンを使用しながらの
走行は周りの音が聞こえにくく危険です。
絶対にやめましょう。



禁止 凹凸の激しい所を走らない

ハンドルがとられたりふらついたりする上、タイヤやリムを破損します。自転車を降りて、押して歩くようにしてください。



禁止 スピードを出しすぎない

スピードを出しすぎると、ハンドル操作が難しく、
ブレーキが効かなくなります。
また、雨天時や坂道（下り坂）では
スリップしやすく、転倒事故を起し
やすくなりますので注意しましょう。



禁止 シートポスト及びハンドルポストの限界標識について

サドルやハンドルの折れ、抜けによる
事故防止のため、シートポスト及び
ハンドルポストの限界標識線がフレーム
の中にかくれる高さの状態でお乗り
ください。



はめ合わせ限界標識

禁止　無灯火で乗らない

夜間やトンネル等の暗いところを
走行する場合は、必ず前照灯を点けて
ください。前照灯の明りは路面状態の
確認のみならず他の車両や歩行者から
の視認をしやすくする効果があります。



禁止　ブレーキの制動面に注油しない

ブレーキに関係する箇所のうち、
リム、ブレーキゴム、バンドブレーキの
ドラム内などには絶対に注油したり
油布で拭いたりしないでください。
ブレーキが効かなくなり、非常に
危険です。



禁止 走りながら足で発電ランプの操作をしない

ダイナモの手元起動装置のない
自転車のダイナモ及びバッテリー
ランプの転倒は必ず停止し、手で
操作してください。足での操作は
足や靴が車輪に巻き込み転倒する
恐れがあり危険です。



禁止 傘やステッキ、釣り竿等を車体に差し込んだり、吊り下げない

車輪やブレーキなどの挟まり、ロック（固定）
させたり、周りの歩行者に怪我をさせる
恐れがあります。
絶対にしないようにしてください。



⚠ 警告事項

禁止　ニギリのゆるんでいるものには乗らない

ニギリの弾性が低下し回る物はハンドルから抜ける恐れがあり大変危険です。直ぐに取り換えてください。



禁止　回転部には触れない

回転部 (前・後輪、ギヤクランク、チェーン部) が動いているときは、手・足で触れないでください。
特に掃除やお子様が遊んでいる時等に回転部に手や足を突っ込まないように注意してください。



禁止　ハンドルの形を変えない

ハンドルを上向きや前向きにして乗ると乗車姿勢が不自然となりやすく走行も不安定となり、転倒しケガをする恐れがあります。



禁止 自転車の改造をしない

修理や分解、部品の組み付けは、販売店にご相談ください。ハブステップの装着は危険な改造です。取扱説明書に記載されている調整箇所以外の箇所を調整することはやめてください。万一、不当な改造が起因される故障は補償の対象外となります。



禁止 幼児の夜間走行は禁止です

幼児には、夜間は自転車に乗せないようにしてください。



禁止 飲酒しているときは絶対に乗らない

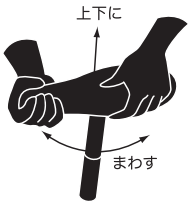
病気やケガで安全運転ができない時は乗らない。事故などによるケガの恐れがあります。



禁止 車輪やサドル・ハンドルの締付け確認せずに乗らない

車輪やサドル・ハンドルが外れて転倒によるケガの恐れがあります。

締付け確認方法については P８をご参照ください。



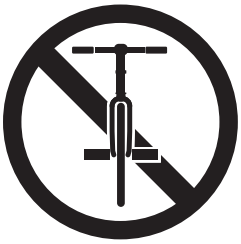
禁止 ケンケン乗りはしない

片方の足をペダルに掛け、反対側の足で地面を蹴り勢いを付けてからの乗車方法は、急発進したりバランスを崩しやすく、転倒し怪我をする恐れがあります。



禁止 歩行者に危害を及ぼすおそれがある突出物の装着禁止

歩行者に接触してケガや事故につながる恐れのある突出物(ハブステップなど)の取付はしないでください。



⚠ 警告 積載時の走行に注意

重い荷物を積んだ状態ですと、通常よりも自転車の動きが不安定になりますので、走行には十分注意してください。



⚠ 注意事項

禁止　乗るときは安全な服装で

マフラーや裾の長いスカートなどの運転のしにくい服装はやめてください。長いボトムを履いて乗車する場合は車輪やギヤにからまる事があり危険です。また、滑りやすい靴や、かかとの高い靴をはいて乗らないでください。



禁止　スタンドを上げるときは、必ずロックを完全に解除すること

ロックを完全に解除しないと、スタンドを上げている途中でロックがかかることがあり、カーブのときスタンドが地面と接触し転倒によるケガの恐れがあります。



禁止　カーブではスピードを出さない

曲がりきれずに思わぬ事故をまねきます。カーブでブレーキをかけると、横滑りを起し転倒する危険があります。

・スピードを落として走りましょう。
・カーブでは曲がる側のペダルを下げないようにしましょう。



禁止　雨、強風、雪のとき

・雨のとき
服装(雨具)をととのえる。傘を持っての片手運転は絶対にやめてください。雨合羽やレインコートを着る際には、裾が引っかかったりしないように裾は必セーフティーバンド・輪ゴム・クリップなどで必ずまとめてください。また、雨の日はブレーキも効きにくくスリップしやすいので、ゆっくり走りましょう。

・強風のとき
ハンドルがふらつきやすく安全に運転出来ません。　無理に乗らずに自転車から降り、押して歩きましょう。

・雪のとき
雪の日には乗らないのが一番です。自転車から降り、 押して歩くように心掛けましょう。また、冬の晴れた日でも日陰の路面が凍っていたり、雪が残っていたりしますので、滑って転倒する恐れがあるため、注意が必要です。



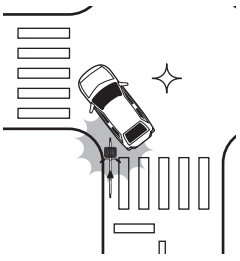
禁止　駐輪時の注意

・自転車に乗って行った先で自転車を放置しないようにしましょう。
・駐輪するときは駐輪場に停めましょう。
・平坦な場所に必ずスタンドをロックし施錠しましょう。
・自転車使用後は、ブレーキに手で触れないでください。熱くなっている箇所がありますので火傷の恐れがあります。



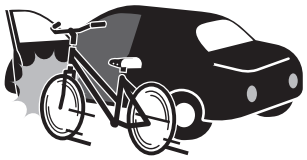
禁止　自動車の左折車

交差点に差し掛かり、そのまま直進しようとするときは左折車の動きに十分注意しましょう。左折する自動車のバックミラーに自転車が入っていない場合があります。信号で停止するときなど自動車の車線に入らないようにしましょう。



禁止　自動車の横を走り過ぎるときはスピードを出さない

自動車のドアが急に開き衝突の危険があります。



禁止　走行中ブレーキワイヤーを引っ張ったり、曲げたりしない

ブレーキワイヤーを引っ張ったり、曲げたりすると、ブレーキが掛った状態となる場合がありますので、走行中は絶対にしないでください。

禁止　ギヤチェンジは一度に二段以上しない

・一気にギヤチェンジすると、チェーンが外れることがあり大変危険です。
・ギヤ、チェーン、変速機を痛め、破損の要因にもなります。
・一段ずつチェンジをしましょう。

⚠ 注意事項

禁止　ブレーキに関する注意

・急ブレーキをかけない

急ブレーキをかけるとスリップして転倒する危険があります。
前方に注意して安全走行をしてください。

・片側だけのブレーキをかけない

特に前ブレーキだけをかけた場合、バランスを崩して転倒し、ケガをする恐れがあります。走行中は常にブレーキレバーをすぐに握れるようにして、後ブレーキを前ブレーキより僅か先に軽くかけてから、前後ブレーキともかけてください。



・長い下り坂などでのブレーキのかけっぱなしはしない

ブレーキの制動部が発熱してブレーキが効かなくなり、衝突や転倒によるケガの恐れがあります。前後どちらかのブレーキレバーを時々離して発熱を抑えてください。　特に後輪用のバンドブレーキやローラーブレーキは発熱しやすいのでご注意ください。

・荷物積載や幼児同乗時及び、空荷や幼児同乗なしの場合の注意

重量の変化により、制動性能や操舵性能が著しく変化しますので、前後ブレーキをバランスよくコントロールして安全運転を心がけて下さい。

禁止　自転車の保管

自転車の保管はできるだけ雨ざらしとなる場所をさけてください。
雨に濡れると、チェーンやブレーキワイヤーなどが錆びてスムーズに作動しなくなります。
取扱説明書を読んで、こまめに注油や掃除をしてください。

禁止　滑りやすいところでは乗らない

積雪や、凍結した道路、工事用の鉄板やぬかるみ、軌道敷きなどでの運転はスリップしやすく大変危険です。そのようなところでは、自転車を降りて押して歩いてください。



⚠ 前輪のロックに関する注意

前輪ロックとは、走行中に前車輪の回転が瞬間的にロックされて車輪が回らなくなる状態を言います。
自転車が急停止することで乗員が自転車の前方向に飛び出してしまい、大ケガをする恐れがあります。

前輪ロックの原因として以下のような場合が考えられます。

- ハンドルに吊ったバックなどが前車輪や前車輪と前ホークの間に入ってしまったとき。
- 前カゴに入れていた、ヒモ状の物が前車輪の間に入ってしまったとき。
- スピードが出ているのに前ブレーキのみをかけたとき
- ダイナモランプを点灯させようとして、足先で操作し、誤って車輪の間に突っ込んでしまったとき。
- スポーク切れ等の原因でリムの横振れが大きくなり、タイヤと前ホーク接触したとき。
- 衝突などで前ホークが曲がっていたり、ネジがゆるんでいたりして、ブレーキゴムがタイヤに当たったとき。
- 外部から前車輪の間に異物が入ってしまったとき。
- 前車輪のネジがゆるんでいて車輪が傾いてタイヤが車体に接触してしまったとき。

⚠ 乗車前の注意

正しい乗車姿勢がとれますか

サドルとハンドルの高さを調整してください。
（実際に乗って確認してください。）

- 円滑なペダリングができるか
- ベル、ブレーキ及びギヤチェンジが確実に操作できるか
- ハンドル操作が容易にできるか



必ず点検をしてください

乗る前には必ず点検してください。
点検については本書をよく読んで
点検してください。分からない点は、
販売店に相談してください。



⚠ 乗車前の注意

安全な服装で

・車輪に巻き込まれやすい服装（マフラーや裾の長いスカート等）での運転はやめてください。
・ズボンの裾の汚れやチェーンへの巻き込み防止のためにズボンバンドを足首部分に巻いてください。
・靴はかかとが低くく滑りにくい物をはいてください。
・安全のため、ヘルメットを着用しましょう。



乗る練習

・練習をするときは、空き地や公園などの安全な場所で行ってください。よく練習してから一般道路で乗るようにしましょう。

初期点検と定期点検

・購入後二か月以内は、ネジのなじみなどの影響で締付け部分にゆるみなどが生じやすいので、購入後二か月以内に初期点検を受けてください。その後は年に一度、または異常を感じた場合に、必ず点検を受けてください。（有料）

指示 定期点検、整備を受けていないと保証の対象外となることがあります。

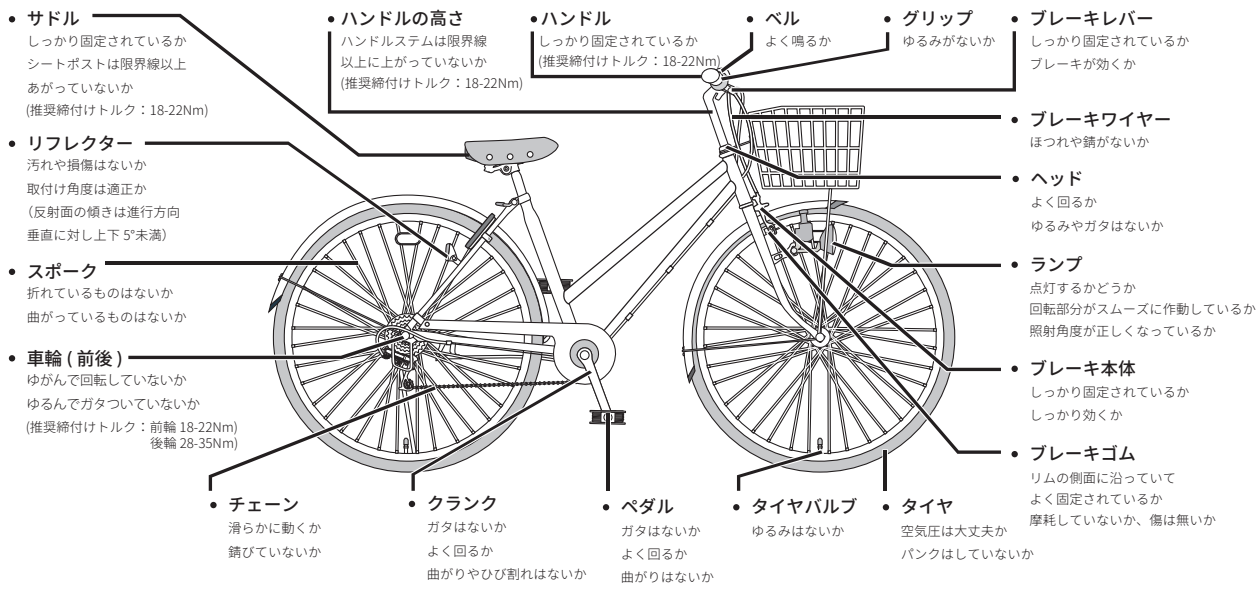
⚠ 乗車前の点検

※お子さまが乗られる場合は、必ず保護者の方が点検をおこなってください。

日常点検と調整ポイント

・安全に乗っていただくために、乗車前に次の点検を実施してください。
・点検、調整後は、試乗を行ってください。
・異常があった時や不明な点がある時は、乗車せず販売店にご相談ください。

強制
・ブレーキワイヤーは異常がなくても１年に１回は交換してください。
・タイヤは接地面のトレッド（タイヤの山）が一部でもなくなる前に交換してください。
・ブレーキゴムは制動面の溝が残り 1mm になる前に交換してください。



■タイヤの空気圧をお確かめください

・タイヤの空気圧が低いと乗車時に自転車が重たく操作性が悪くなったように感じられます。

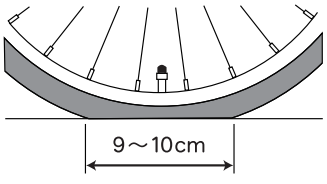
また、パンクがしやすくなるだけでなく、タイヤの摩耗を早めてしまいます。

適正空気圧はタイヤのサイド面に記載されていますので、常に適正空気圧を守って、ご乗車ください。

■パンクしていると思われる場合

・タイヤの空気圧が異常に低い、またはパンクしている可能性があると思われるときは、自転車には乗らずに販売店で見て頂くか、空気を入れて暫く様子を見てください。

・タイヤゲージがない場合は、自転車に乗車した時の接地面の長さが９～ 10cm 程度を目安にしてください。



■正しい乗車姿勢がとれますか

・サドルに座ったとき、サドル、ハンドル、ブレーキレバーは適正な位置にありますか。

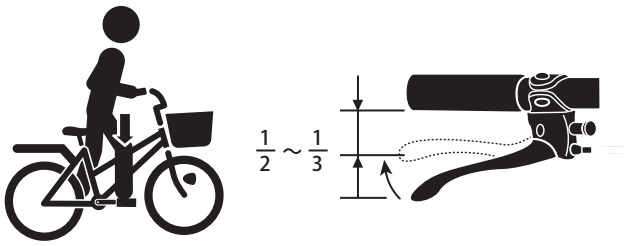
■フレーム、前ホーク等の定期点検

・一般用自転車及び折りたたみ車には、激しい使用による破損の可能性に対して、乗員の注意を促し、かつフレーム体、前ホーク、サスペンション接合部(該当車種のみ)の定期点検をおこなってください。

⚠ 乗車前の点検

■ブレーキはよく効きますか

① 左右のブレーキレバーを握って自転車を前方向へ体重を乗せて押し進めたとき、ブレーキレバーとにぎりの間が 1/2~1/3 になるまでにブレーキが効きますか。
前方向に体重を乗せながらブレーキをかけたとき、前車輪が回る様ならブレーキの効きが良くないので整備が必要です。また、後ブレーキをかけた状態で片側のペダルを前方水平の位置にして、ペダルに全体重をかけた際に後車輪が回れば、ブレーキの整備が必要です。



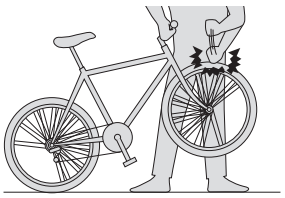
② ブレーキレバーの取付がゆるんだりガタがないか確かめてください。また、ブレーキワイヤーのサビや折れ曲がりがあると、ブレーキレバーの作動が重かったり、ブレーキが効かないことがありますので注意してください。

③ お子様が乗られる場合は、ブレーキレバーに指が届いてるか確認してください。また、お子様にはブレーキのかけ方を繰り返し教えてあげてください。

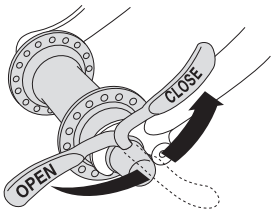
警告
・幼児2人同乗対応車の場合、許容積載質量(乗員及び積載する荷物、幼児の質量合計)が約100kg、最大総質量(上記質量に車体重量と後部同乗器を追加した質量)が約130kgとなり、最大積載時ではブレーキ制動が大きく異なります。
ブレーキをかける際は十分気を付けて下さい。

■車輪の固定確認

① 自転車を持ち上げて車輪を上から強くたたいたとき、車輪がズレたりガタついたりしないこと。
※締付け推奨トルク：前輪 18-22Nm
後輪 28-35Nm



② クイックレリーズハブの場合
クイックレバーが 「 CLOSE 」のマークが見える位置で強く締付られていますか。「 OPEN 」の位置になっている場合、または「 CLOSE 」の標識が見える位置になっていても完全に締っていない場合は、車輪が外れる恐れがあり大変危険です。



■振れ・ガタ・回転性

① 自転車を持ち上げて車輪を回したとき、スムーズに回転し、大きな振れやガタがないこと。

警告
ズレやガタがあると、走行中に車輪が外れて事故・ケガを起こすおそれがあります。

■タイヤ・リムのキズ・摩耗

① 深いキズ、穴がないこと
② 異物(砂、釘、粘着テープなど)の付着、刺さりがないこと
③ 接地面の溝の深さや模様が十分残っていること

警告
・深いキズや異物の付着があるまま使い続けると、破損・パンクの原因となり大変危険です。
・繊維強化樹脂製リムの場合、外圧等により、外観上は気づかない内部損傷が起こる可能性があります。異常を感じた場合は、すぐに使用を止め、販売店(または必要に応じて製造事業者)による点検を受けるようにしましょう。

■スポーク・ニップルの点検方法

① 切れ、外れ、変形の無いこと

警告
・スポークやニップルの切れ、外れ、変形がある場合は、早急に交換してください。車輪が変形するなどにより、店頭するおそれがあります。
スポークやニップルが一本でも破損したまま走行を続けると、他のスポークに大きな負担が加わり、スポーク切れが継続して発生する場合があります。
異常のあった場合、同一車輪のスポークはすべて交換することをお勧めします。

■ハンドル・ヘッド部の固定確認

① 前車輪に対してハンドルが直角に取り付けられているか。
② ハンドルステムが限界標識が見えない位置まで差し込まれているか。
③ 下図のように前車輪を両足で破産で固定し、左右に回したり押し下げ たりして、ハンドルが固定されていることを確認する。



④ 上図左の状態でブレーキレバーをしっかりにぎり、自転車を前後に ゆすった際、ガタつきが無いこと。(ガタがある場合ヘッド部のゆるみ や破損のおそれがあります)

■グリップの固定確認

① グリップに力を入れても回ったり抜けないこと。
② グリップにやぶれやひび割れが無いこと。

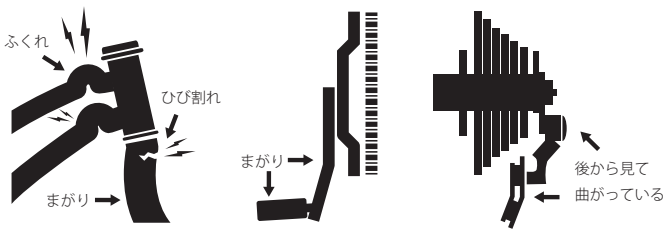
■補助車の点検

お子様が補助輪付自転車に乗られる場合は、自転車本体に補助車がしっかりと固定されているか、。また、補助輪にガタがないかお確かめください。

⚠ 乗車前の点検

■フレームや部品が変形していないか

① フレームや前ホークに変形やひび割れなどがないか。
② ペダル軸やギヤクランクに曲がりやひび割れ、塗装の細いシワなどがないか。
③ ディレイラー(変速器)に変形はないか

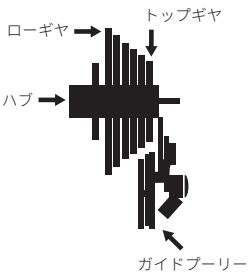


強制 **変形やひび割れがある場合は直ちに使用を中止し、自転車専門店で必ず交換、修理をするようにしてください。**

禁止 **曲がりを直しての再使用は絶対にしないでください。破損による事故やケガの原因となる恐れがあります。**

■ディレイラー (変速機) は正常に動きますか

クランクを回しながら変速レバーを操作したときスムーズに変速しますか。また、ローギヤー側、トップギヤー側に変速させたとき、チェーンが外れないか確認。



■各部のネジにゆるみがないか

自転車を地面から10㎝程度持ち上げて静かに落とし、ガタつくような異音が無いかを確認。

強制 **異音がする場合、ネジ類がゆるんでいるおそれがありますので、直ちに使用を止め、販売店にご相談ください。**

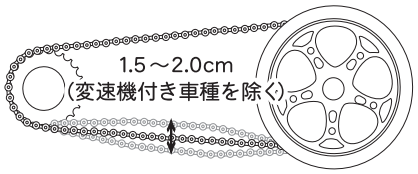
■ライトは点灯しますか

出掛ける前にはライトが点灯するか、回転部分がスムーズに作動するか確認してください。ライトの光軸が前方の地面(約 10m 前方)を照らしていますか



■チェーンの張り具合

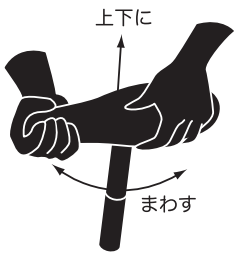
チェーンの張りは下図のような遊びが必要です。張りすぎやたるみがあると、チェーン切れやチェーンが外れることがあります。その際は販売店にご相談ください。



■サドルはしっかり固定されていますか

① 大人の人がサドルを上下左右に力を加えても動かないこと。

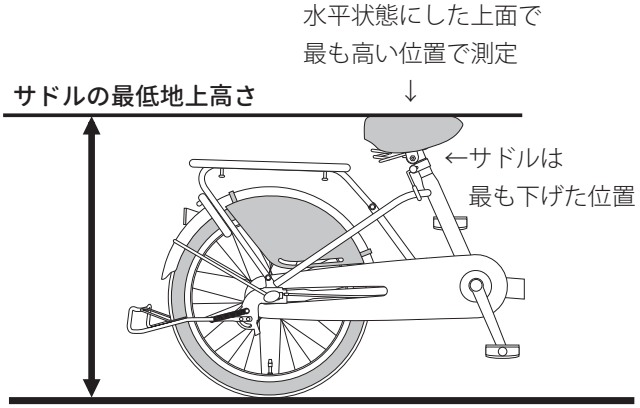
② サドルはフレームと真っ直ぐに取付けられているか。
また、シートポストの限界標識線が見えない位置で取付けられていること。



⚠ 正しい使用条件

■サドルの最低地上高さ

カタログや商品カード等で表記されている、一般自転車の「サドル最低地上高さ」につきましては、左図のようにスタンドを上げサドルを最下段まで下げた状態で、地上表面からサドル上面までの高さを表記しております。



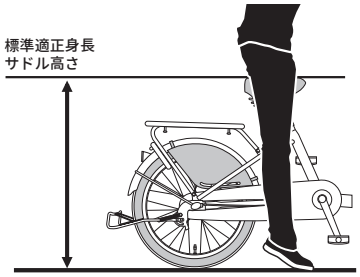
⚠ 正しい使用条件

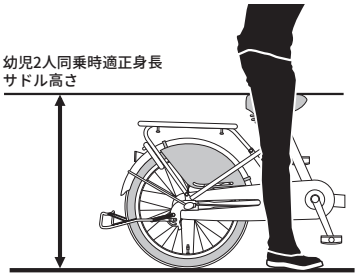
■標準適正身長と、幼児2人同乗時の適正身長

身長にあった自転車の調整は、サドルにまたがり両足先が地面に付くように調整することが適当です。
サドルの高さを調整しても両足先が地面につかないものや、
足が余るようなものは正しい調整とはいえません。

下の表を参考にサドル高さの調整目安にしてください。
わからない時は販売店に相談してください。

また、幼児2人同乗対応の自転車の場合は、両足裏全体が
地面に付いた状態で高さが、「幼児2人同乗時の適正身長」
となります。





※標準適正身長サドル高さの目安

サドル地上高さ (cm)	46	50	54	58	62	66	70	74	78	82	86	90	94	98
適正身長（cm）	98	105	111	118	124	131	137	144	150	157	163	170	176	183

■標準常用速度及び標準乗員体重

※スピードの出しすぎは危険ですので安全速度を守ってください。 ※コンパクト車は呼び(径)20以下の車輪でコンパクト化を図った自転車です。

	スポーティ車	シティ車	コンパクト車	実用車	子供車	幼児車
常用速度㎞ / h	15 ～ 25	10 ～ 20	10 ～ 15	10 ～ 15	8～ 18	5～ 8
標準乗員体重kg	65	65	65	65	40	20

■乗員体重 ●車輪径の呼び20以上の大人車：65kg ●車輪径の呼び24以下の子供車：40kg

標準乗員体重とは、その車種を設計する上で標準的な乗員の体重です。これらの自転車は上記の表に基付き、基本設計しています。従って著しくオーバーした体重の方が常用された場合は消耗度合、劣化度合が大きくなりますので、品質保証を致しかねることもあります。予めご了承の上ご使用願います。

■最大積載重量

荷物を積む場合は規定の大きさ重量を守って、ズレたりひもが緩んだりしないよう注意してください。また、荷物がブレーキワイヤーに接触したり、ランプやリフレクタなどが隠れないように注意してください。

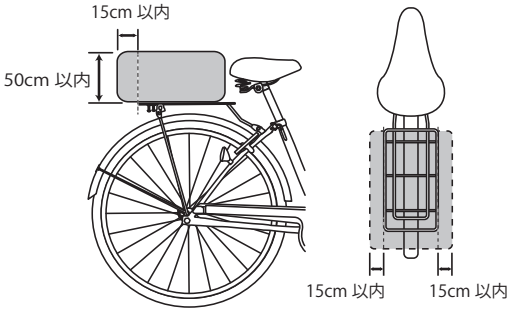
※前カゴ、後キャリヤ以外の箇所に荷物を積まないでください。

※最大積載量については、道路交通法に定められた30kg以下(前カゴと後キャリア合わせて)で使用してください。

※前カゴに荷物を乗せる場合は、上記の最大積載量以内で前カゴに定められた積載量以内(3~5kg程度)でご使用ください。

※幼児車には荷物を積まないでください。

※積載装置を装備した場合の最大積載重量及び大きさ
（積載装置を装備していない場合は適応されません）



■リヤキャリヤの質量別クラスと最大積載重量

車　種	シティ車				コンパクト車	スポーツ車	子供車
後ｷｬﾘﾔの容量ｸﾗｽ	クラス S	クラス 27	クラス 25	クラス 18	クラス 10		
幼児座席の取付	○	○	○	×	×		×
最大積載量	幼児座席と幼児適用体重の合計が製造業者が指定した最大積載量以内での重量で使用可能。	幼児座席と幼児適用体重の合計が27kgまでで使用可能。	幼児座席と幼児適用体重の合計が25kgまでで使用可能。	18kgまでの荷物を積載可能。 幼児座席は取付られません。	10kg 幼児座席は取付られません。		5kg 幼児座席は取付られません。

※上記の最大積載重量は、前カゴと後キャリヤに荷物を載せた場合の合計した重量です。(但し、各都道府県の道路交通規則により多少異なります)
※お買い求めいただいた自転車のキャリヤ容量クラスを守ってご使用ください。 尚、機種によって上記の表と異なる場合がありますので、詳しくは販売店にご確認ください。

禁止	・最大積載量を超える荷物は絶対に積まないでください。 ・大きな容量クラスのリヤキャリヤを取付けても、その自転車の最大積載重量を超えて積載しないでください。
警告	・大きな質量別クラスのリヤキャリアを取り付けても、重い荷物を積載すると自転車の安定性を損なうことがあります。
注意	・シート止めリヤキャリアを後付けする場合にはシートピン本体の長さが短いと確実に固定できず危険なため、シートピン本体を適切な長さのものに交換してください。

⚠ 主な各部の取扱いと調整

安全確保のため、調整はお子さまには絶対にさせないようにして下さい。次の調整を確実に行い、正しい取扱いをお願いします。これを怠りますと思わぬ事故につながります。ご不明な点がございましたらお買い求めの販売店にお尋ねください。

■正常な乗車姿勢

正常な乗車姿勢を取れるよう、ハンドルとサドルの高さを乗車する人の体格に合わせてください。疲れず安全に走るには、乗車姿勢が基本です。サドルに座り、両足をペダル、両手をハンドルグリップに置いて次の操作ができるようにしてください。

1．ペダルの駆動操作が円滑にできる。
2．ブレーキの制動操作が容易にできる。
3．ハンドルの操縦が容易にできる。

※以上の 3 点ができるようサドル・ハンドルの位置に調整してください。



■安全な走行のために

自転車に乗車するときには、年齢に関係なく必ず自転車用ヘルメットを着用してください。自転車用ヘルメットの着用は、道路交通法で定められた努力義務となります。

■ハンドルの調整

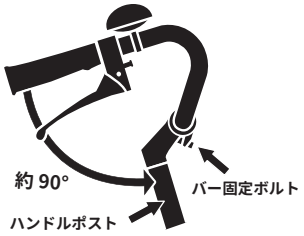
・ハンドルの高さと角度

サドルに腰を降ろして、ハンドルを握ったときに肩や肘に余分な力が入らず、状態がリラックスできるくらいの高さが適当です。ハンドルバーとハンドルステムの取付け角度はハンドルを横から見て、グリップとハンドルステムが直角になるのが標準です。

・ハンドルの角度調整

ハンドルバー締付けナット（ボルト）を必ずゆるめてから、ハンドルバーの角度調整をしてください。　調整後は締付けナット（ボルト）を元とおりにしっかり締めてください。

※締付け推奨トルク：18-22Nm

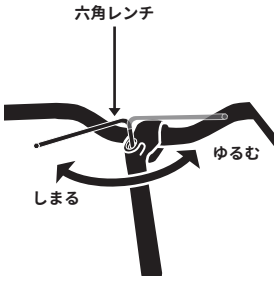


・ハンドルの高さ調整

ハンドルステムの引き上げボルトを２～３回ゆるめます。対辺 13 ㎜スパナ（六角穴付ボルトの場合は六角棒レンチ）を使用してください。

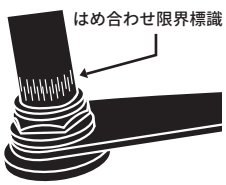
・ボルトの頭に木片などを当てて軽くたたくと固定がゆるみステムは上下に調整できます。

※締付け推奨トルク：18-22Nm



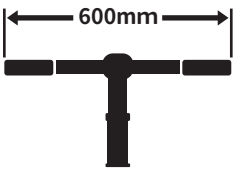
禁止

最も高くした場合でもハンドルステムのはめ合わせ限界標識が見えなくなるまで挿入してください。ハンドルが破損してケガの恐れがあります。



注意

ハンドル幅(ブレーキレバー含む)が600mmを超える場合普通自転車(※)では無くなる為、歩道を走行する事はできません。車道の左側もしくは自転車専用道を通行してください。



※「自転車を除く」の標識がある場合でも適用されない事があります

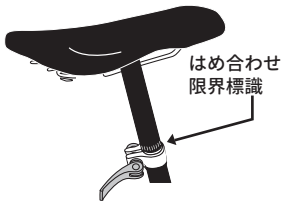
■サドルの調整

・サドルの高さ

サドルに腰を降ろし、ペダルを一番下にして足を乗せたとき、ヒザが軽く曲がる程度の高さが適当です。小さい方や初心者の方は両足つま先が地面に確実に接するくらいの高さに調整してください。

警告

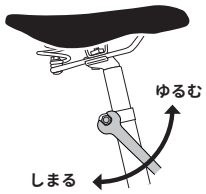
最も高くした場合でもシートポストのはめ合わせ限界標識が見えなくなるまで挿入してください。シートポストが破損してケガの恐れがあります。



・ボルトナット式シートピンの調整方法

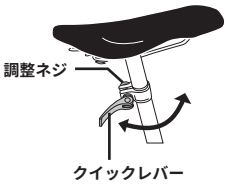
シートピンナットをスパナで時計回りと反対方向へ回すと固定がゆるみサドルを上下に調整できます。固定する場合は時計回りに回して締付けます。

※締付け推奨トルク：18-22Nm



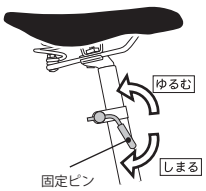
・クイックレバー式シートピンの調整方法

クイックレバーを右図の「ゆるむ」方向に操作すると、シートポストがゆるみます。固定する場合はクイックレバー前を「しまる」方向 (A) にいっぱい押しつけます。シートポストが十分に固定しなかったり、(A) 位置まで操作する前に固くなったりする場合はレバー反対側の調整ナットを回して調整してください。



・レバー式シートピンの調整方法

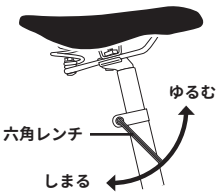
シートピンレバーを時計回りと反対方向に回すと、シートポストがゆるみます。固定する場合は、時計回りに回して締付けます。



⚠ 主な各部の取扱いと調整

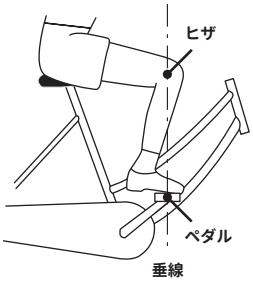
・六角穴式シートピンの調整方法

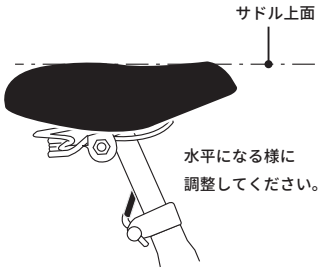
六角レンチを六角穴ボルトに差込み、反時計回り (左回り) に回すと固定がゆるみサドルを上下に調整できます。固定する場合は時計回り (右回り) に回して締付けます。



・サドルの前後位置

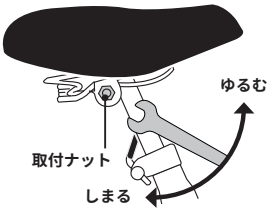
サドルの前後位置は､ペダルを斜め前の一番力のかかる位置に足を乗せたとき、ヒザの中心から垂線がペダルの中心を通る様にするのが標準です。また、角度はサドル上面がほぼ水平になるように調整してください。





・サドルの前後位置の調整方法

サドルの前後位置は、サドル取付ナットをゆるめて調整します。調整後はサドル前先端をフレームの中心に合わせて、サドル取付ナットをしっかり締付けてください。

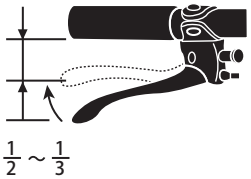




※締付け推奨トルク：18-22Nm

■ブレーキの調整

ブレーキは自転車を安全に乗るために一番大切なものです。いつも最高の性能が発揮出来る様に乗車前の点検を必ず行ってください。ブレーキレバーを操作し、レバーの開きが 1/2 ～ 1/3 でブレーキが効く様にしてください。



※左のブレーキレバーで後輪、右のブレーキレバーで前輪のブレーキが作動する事を確認してください。

・適正なブレーキレバーの開き

ブレーキレバーとグリップの間隔は、ブレーキをかけていない状態でグリップを握ったまま２本～３本の指の第一関節でブレーキレバーを巻き込む事の出来る幅に調整します。



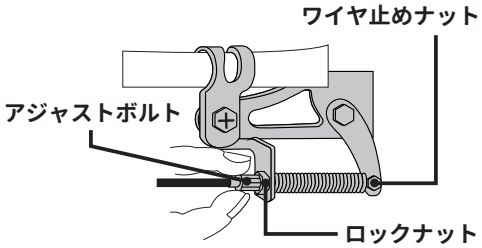
・ブレーキレバーの角度は、サドルに座り腕を延ばしてその延長線上に沿うようにセットします。



・ブレーキレバーは、強く握ったときでも指が挟まらない様にワイヤーを張っておきます。

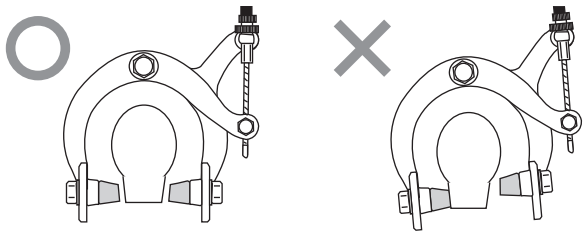
・バンドブレーキの調整方法

・ワイヤー式バンドブレーキはロックナットをゆるめアジャストボルトを回して調整します。
・調整後はロックナットをしっかり締めてください。あまりブレーキを効かせすぎますとドラムとライニングが接触し、車輪の回転が重くなりますから注意してください。



・次の場合は販売店に相談してください。

・アジャストボルトで調整仕切れない場合。
・片効きしていませんか。 片効きしていると適切なリムとの隙間が得られないばかりか、 ブレーキゴムが常にリムに当たり、ブレーキゴムの摩耗が激しくなります。
・ブレーキゴムは、リム側面にきちんと合っていますか。ブレーキをかけた時、ゴムがタイヤに当たっていると、タイヤ切れの原因になります。又、リム側面からブレーキゴムが外れているとブレーキゴムの片減りを起こします。
・ブレーキゴムが摩耗して溝の残りが 1mm になったときは、ブレーキゴムを交換してください。
・ブレーキの効きが悪くなった場合。

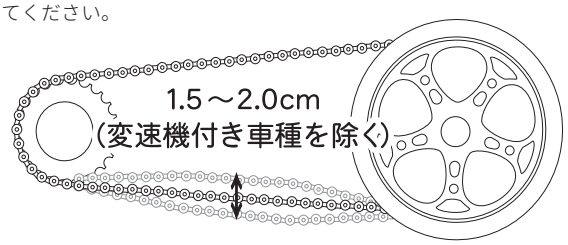


警告

・ブレーキ各部は説明書記載以外の調整を自分で行わないでください。
・アルミニウム製リムでキャリパーブレーキ等のリムブレーキを使用している場合、制動による摩擦でリムが破損、又は車輪の強度低下によるリムの変形などが原因で転倒する危険があります。

■チェーンの取扱い

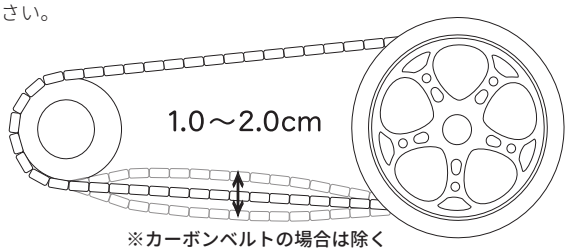
チェーンの張りは図の様な遊びが必要です。張りすぎやたるみすぎがある様でしたら、販売店にご相談ください。特にたるみが大きくなると走行時にチェーンが外れやすくなり危険ですのですぐに販売店で調整を受けてください。



⚠ 主な各部の取扱いと調整

■ベルト車の取扱い

ベルト車は、操作感がスムーズな上、油を必要とせずチェーンに比べて伸びが少なくメンテナンスの手間の要らない駆動方式です。ベルトは下図の様な遊びが必要です。これ以上にたるむようでしたら、販売店と相談してください。

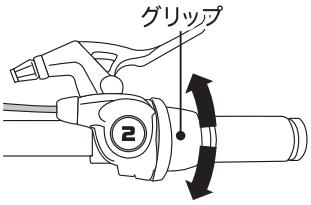


※カーボンベルトの場合は除く

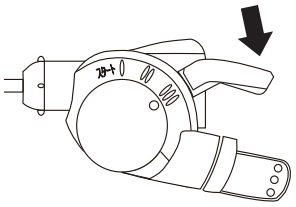
■変速機の取扱い

・主なシフトレバーの種類

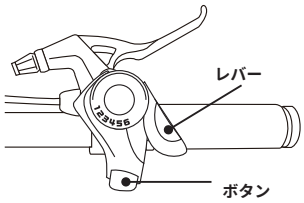
タイプ1.
グリップを回してシフトをアップ、またダウンします。



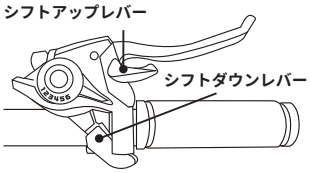
タイプ2.
レバーを押してシフトをアップ、またダウンします。



タイプ3.
ボタンを押してシフトをアップ、またレバーを引いてシフトダウンします。

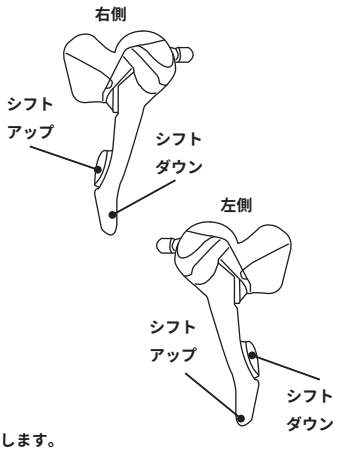


タイプ4.
ボタンを押してシフトをアップ、またレバーを引いてシフトダウンします。



2つのレバーでシフトアップ、シフトダウンします。

タイプ5. (スポーティ車用)
右側の変速機の小さいレバーを内側に押すとリアディレーラーがシフトアップされます。また大きいレバーを内側へ押すとシフトダウンします。
左側の変速機の小さいレバーを内側に押すとフロントディレーラーがシフトアップされます。また大きいレバーを内側へ押すとシフトダウンします。



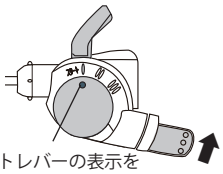
2つのレバーでシフトアップ、シフトダウンします。

・内装3段変速機 (例：ピアノタッチ 1-2-3 チェンジ) の取り扱い

後ハブ内に変速機を組み込んだ内装式3段変速機です。

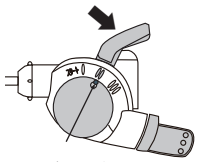
使い方

① スタートするときなどペダルが重く感じるときは、下のレバーを横に押して、上のレバー位置を (スタート) にしてください。



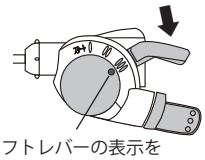
シフトレバーの表示を (スタート) に合わせます。

② 軽い荷物を積んだときや平坦な道などでは上のレバーを下に押し、レバーの位置を (II) にしてください。



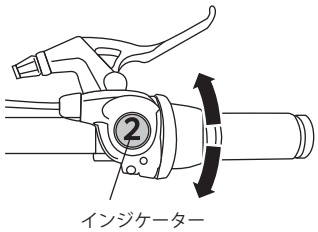
シフトレバーの表示を (II) に合わせます。

③ 追い風やペダリングに余裕のあるときは、上のレバーを一番下に押し、レバー位置を (III) にしてください。



シフトレバーの表示を (III) に合わせます。

・内装3段変速機 (グリップシフト) の取り扱い



内装3段変速レバーのシフトグリップをハンドルの内側に回すと
① ➡ ② ➡ ③ と変速します。

反対にハンドルの外側に回すと
③ ➡ ② ➡ ① と戻ります。



ペダルの回転が軽く、発進時や上り坂で使用	ペダルの回転は普通で、平地を走るときに使用	ペダルの回転が重く、追い風や早く走りたいとき

・取扱い上の注意点

安全にご利用いただくため、必ずお守りください。

> **警告** **(III)から(II)、(II)から(I)に変速操作するときは、ペダルの踏力を弱くするか、回転を止めるかして行ってください。足をすべらす等の危険があります。**

・ベルクランク部分には、絶対に足をかけないでください。
・シフトワイヤーはカゴブラケットやバスケットのワイヤー掛けには絶対に通さないで下さい。
・変速がスムーズに行われなくなったときは、販売店にて調整してください。

⚠ 主な各部の取扱いと調整

■ディレーラー(変速機)の取扱い

ディレイラーは、坂道や風向きなどの走行条件の変化に応じてギヤ比を変え、ペダリングの速さ、踏力を一定にして疲れを少なくする装置です。
右側レバーでリヤディレイラー、左側レバーでフロントディレイラーを作動させ、チェーンの掛るギヤ位置を変えてギヤ比を変えます。本書では一般的なディレイラーについて説明していますが、特殊なディレイラー使用車種については、各ディレイラーの専用説明書をよくお読みいただき正しい取扱いをお願いいたします。

・ディレーラー (変速機) の使い方

平地を走るとき

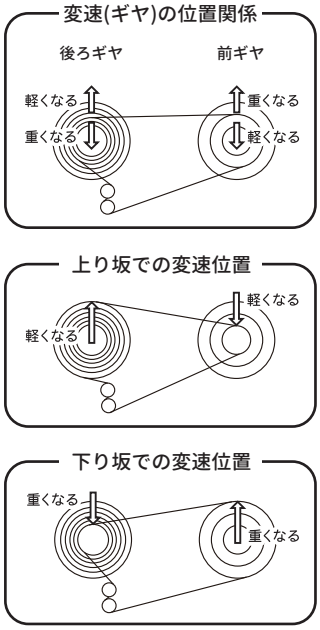
走行中は脚力にあわせてシフト位置、ギヤ位置を選んでください。

上り坂を走るとき

脚力にあわせて後ろギヤを軽めに調節してください。
※平地でのペダル回転を維持する程度にギヤを軽めにするのが理想です。
急な上り坂の場合は前ギヤも変速してより軽いギヤをつかうか、自転車から降りて押すようにしてください。
ふらついて転倒する恐れがあります。

下り坂を走るとき

急な下り坂のときは降りて押すようにしてください。スピードがですぎて危険です。



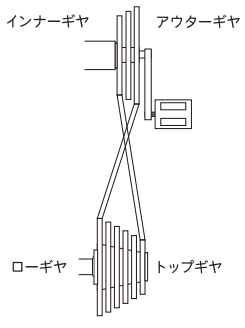
注意 **坂の手前で早めに変速操作をしてください。坂の途中では変速がしにくく、無理に変速しようとチェーンが外れて転倒しケガをする恐れがあります。下がっているときは、後ブレーキをかけながらスピードが出すぎない様にコントロールしてください。**

・操作上の注意

① ペダルを止めたまま、またはギヤクランクを逆回転させながらシフトするとディレーラー、チェーンを痛め、故障の原因になります。

② ペダルを強く踏みながらシフトしたり、一気に 2 段以上のシフトをすると、チェーン・ギヤの寿命が短くなるばかりでなく足をペダルから踏み外したり、チェーンが外れたりして転倒する恐れがあります。

③ 右図のようにチェーンが斜めになる使用 (アウターギヤとローギヤ及びインナーギヤとトップギヤの組み合わせ) は、チェーン及びディレーラーに無理がかかりますので、避けてください。



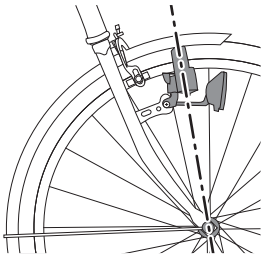
④ チェーンが外れたり、円滑にシフトできないときは、転倒などの危険がありますので調整が必要です。(ディレイラーは微妙な調整が必要です。また、メーカー及び機種によって構造と調整方法が異なります。むやみに調整ネジを回すと、更に調子が悪くなることがあります。) 必ず販売店に依頼してください。

■ランプ類の取扱い

ランプ類は走行の安全上正しい取扱いが必要です。この取扱い事項は、一般的な発電ランプについて説明しています。電池式ライトの場合は、電池が無くなり次第新しいものと交換してください。特殊なランプを使用の車種については販売店にお問い合わせください。

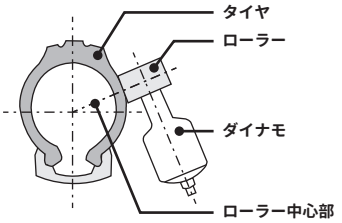
・ダイナモの位置

ダイナモの中心線延長がハブの中心にあっているか確認してください。
取付けがゆるんでダイナモが前に傾いた状態での走行は車輪に挟まれる恐れがあり危険です。販売店に相談してください。

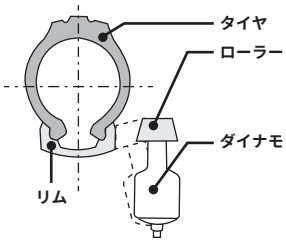


・手の指、又はダイナモリモコン装置で起倒レバーを倒し、ダイナモを駆動状態にしたとき

・タイヤドライブの場合
ローラーの中心がタイヤに接触しているか確認して下さい。



・リムドライブの場合
ローラーの先端がリムに接触し、タイヤには、接触していない事を確認してください。

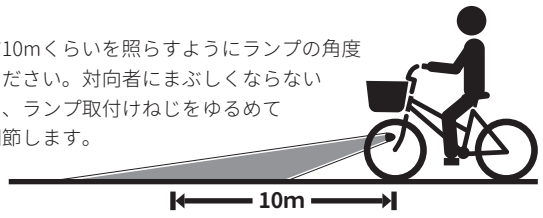


強制 **夜間及びトンネル内など暗い所を走行するときは、必ずランプを装備し、点灯することが法律で定められています。**

注意 **荷物などがランプの照射範囲を遮らないように注意してください。**

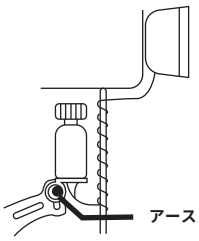
・照射角度

自転車の前方10mくらいを照らすようにランプの角度を調節してください。対向者にまぶしくならないように配慮し、ランプ取付けねじをゆるめて照射角度を調節します。

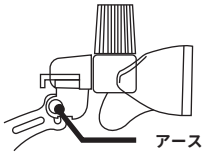


・ランプ及び尾灯が点灯しないとき

- ダイナモは正常に回転しているか
- コードの接続は完全か
- アースは完全か
- 電球は切れていないか
- 電球と接触版の接触はよいか
- 電球は正しいボルト、ワットか



※ 2 ランプの場合ランプから 2 本のコードを一本ずつダイナモに接続してください。テールランプのコードはどちらか一方の端子に接続してください。



・電球の取り換え

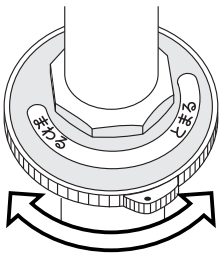
電球を取り替える時には同じ仕様の電球をご使用ください。
尚、特殊なライトシステムの場合は使用箇所により電球の仕様が異なりますので、販売店で確認の上、交換補充するようにしてください。

⚠ 主な各部の取扱いと調整

■前車輪旋回抑制機構(例：くるピタ)の取扱い

前車輪旋回抑制機構は駐車時(特にバスケット等に荷物を載せた場合)にハンドルのふらつきや回転を制御するものです。

・くるピタの場合



・駐輪する時
リングを反時計方向(「とまる」の指示)へ当たりまで回してください。

・乗車する時
リングを時計方向(「まわる」の指示)へ当たりまで回してください。

※リングを反時計方向に回しても制御機構が動かない場合はハンドルを少し左右に動かしながらリングを当たりまで回してください。

強制 乗車する前に必ず、ハンドルがスムーズに回ることを確認してください。

注意 ハンドルに大きな力を加えると回転します。
これは、走行中作動してもハンドルが完全に固定されない様にするためです。

■タイヤの取扱い

・WOタイヤとHEタイヤ
同じインチでもWOとHEでは異なる方式のタイヤです。タイヤを交換される際はご注意ください。

WOタイプ
WOタイヤ/ビードワイヤーがリムの全長より短く、その張力で固定するタイプ。


WOタイプ

HEタイプ
HEタイヤ/ビードフックと言う引っかかりでタイヤを固定するタイプ。


HEタイプ

・タイヤ(チューブ)バルブの形式と空気の入れ方

ご使用自転車のバルブの種類をご確認ください。バルブの形式には、「英式」「米式」「仏式」とあります。又、ポンプの口金式はメーカーによって異なりますので詳しくは販売店にご相談ください。

英式	米式	仏式
ブランジャ 		コア引き上げネジ 
英式バルブ用ポンプ口金 	米式バルブ用ポンプ口金 	仏式バルブ用ポンプ口金 
・キャップを外し、ブランジャにポンプの口金を取付け空気を入れる。 ・空気圧を確認し、口金を外してキャップを付ける。	・キャップを外し、ボディにポンプの口金をしっかり奥まで取付けて空気を入れる。 ・空気圧を確認し、口金を外してキャップを付ける。	・キャップを外し、コア引上げネジを2～3回転ゆるめて、コア先端を上から押し、空気の抜けを確認する。ボディにポンプの口金をしっかり奥まで取付けて空気を入れる。 ・空気圧を確認し、口金を外してコア引上げネジを回して締めキャップを付ける。

・タイヤの空気圧について

タイヤの空気圧が少ないと、接地面積が広くなって抵抗が大きくなるほか、パンクやタイヤ・リムの損傷の原因になります。タイヤに表示している空気圧の範囲内でご使用ください。

表示例・・・【○○○ kPa、 ○○○kgf/cm^2、 ○○PSI】

※ 変換率・・・1kPa = 0.01kgf/cm^2 = 0.145PSI

・仏式バルブ及び米式バルブは、専用のタイヤゲージで空気圧を測定する事が出来ます。販売店にご相談ください。

・タイヤゲージが無い場合は、自転車を乗車した時の接地長で判断してください。(P22参照)

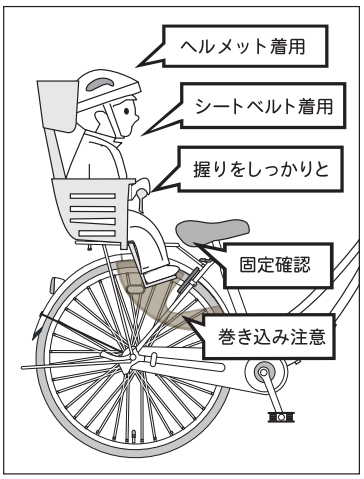
■幼児座席の取付け及び幼児同乗時の注意

・幼児座席を取り付ける場合、取付け可能かどうかは自転車またはリヤキャリヤの表示及び取扱説明書で確認してください。

・適合するリヤキャリヤの質量別クラスは、「正しい使用条件」の頁にある表をご参照ください。

・幼児座席の質量と幼児座席が指定する最大適用体重との合計が、リヤキャリヤの最大積載質量以下になるようにしてください。

・幼児の使用可能年齢は幼児座席の取扱説明書をご確認ください。



・前部に幼児用座席を取り付けた時、前方下方が見えにくくなる場合がありますので、運転には十分注意してください。

・後部に幼児用座席を取り付けた時、幼児を乗せた場合には後方に目が届かず、幼児の頭がヘッドレストからはみ出していたり、幼児が手足を広げたりしている場合がありますので、狭い場所のすり抜けや障害物のすぐ横を通る時には十分注意してください。

・走行中に幼児の足等が車輪に巻き込まれないよう防護カバーの付いた幼児座席と巻き込み防止のドレスネット等を合わせてご使用ください。

・自転車が転倒すると荷台及び幼児座席が変形したり、キズや亀裂（クラック）が入り破損したりすることがあります。

また、変形を無理に戻すと破損の原因となる恐れがあります。荷台および幼児座席が確実に自転車へ固定され、破損や変形、キズなどがないかなど、お子様を乗せる前に必ず安全確認を行ってください。荷台の振れ幅が大きい、きしみ音がするなど異常を感じたらお子様を乗せないで下さい。

・お子様の乗せおろしの際は、平坦な場所を選び、必ずお子様を抱いて行ってください。また、スタンドがロックされていることや、スタンドの組付けにガタツキがが無いかを確認してください。
また、自転車にハンドルロックなどが装備されている場合は、その機能が正常に機能しているか確認してください。

・お子様が幼児座席の足乗せ部分を踏み台にして乗り降りしたり、お子様が足乗せ上で立ち上がったりしないようにしてください。自転車が倒れたり、お子様が転倒したり、足乗せの変形、破損につながる恐れがあります。

・お子さまが同乗の場合は、同乗していな時に比べて操作性や制動性能が大きく異なりますのでご注意ください。

・お子さまが同乗の場合、走行中の路面の段差などにご注意ください。
小さな段差でも大きくバランスを崩し、転倒する危険があります。

⚠ 主な各部の取扱いと調整

・幼児座席にお子様を同乗させると、自転車全体の質量が増えて、ふらつきやすくなりますので、安全な場所で練習してからご使用ください。
・後部にお子様を乗せた場合、サドルのスプリング等稼働部に手や足を挟まないように注意してください。

警告
・一本スタンドを備えた自転車では、幼児座席を取付けないでください。必ず、ドレスガード及びロックの付いた両立スタンドをご使用ください。
・幼児を乗せたまま自転車を離れないで下さい。
・幼児座席に幼児を乗せるときは、必ずシートベルトを着用させてください。
・転倒による事故の危険性がありますので、お子様にはJIS T8134と同等以上の性能を持つ幼児用ヘルメットを着用させてください。
・幼児を乗せている場合、可動部に触れないようにしてください。又、足乗せから足が外れると足が車輪に巻き込まれる危険がありますので注意して下さい。

⚠ 幼児車の取扱いと調整

■幼児車の取扱い

小さなお子様が自転車に乗る場合は、必ず保護者の方が乗る前に点検をしてあげてください。又、発育途上で体力や判断力も未熟ですので下記の事項を保護者の方がお子さまに注意するようわかるまで教えてあげてください。

1．ブレーキに手がとどいているかどうか。又、ブレーキは左右同時にかける様、かけ方がわかるまで教えてあげてください。
2．下り坂ではブレーキが効かないことがあり大変危険ですので、スピードを安全な状態まで落として走行するようご指導ください。
3．駐車している車の後などで遊ぶと大変危険ですので遊ぶときや練習をする時は、公園や広場などの安全な場所で乗るようにしてください。
4．交通ルールや標識の見方については、保護者の方が指導し、教えてあげてください。
5．夜間のご使用はおひかえください。やむを得ず使用の場合は、保護者が管理し前照灯を取付点灯させてください。

※補助車輪について
幼児が補助車付き自転車に乗られている場合は、自転車本体に補助車がしっかり固定されていてガタつきがないか確認の上、乗車させてください。また、補助車輪は地面から1～2㎝浮いた状態が正常な高さです。乗りなれてきましたら両立スタンドに取り替えてあげてください。

強制
※お子様や初心者の方は、使いなれるまで十分に練習をしてください。

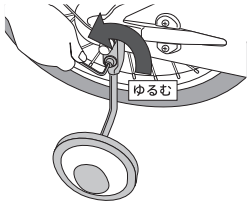
■補助車輪の取り外し

幼児用自転車には簡易的に取外し可能な補助車が取付けられています。取外しの際は下記の説明手順に従い行って下さい。

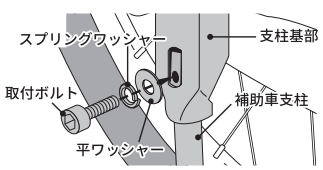
※　取り外し等に必要な工具はお客様自身で、ご用意ください。

タイプA　六角レンチでボルトを締めるタイプの場合

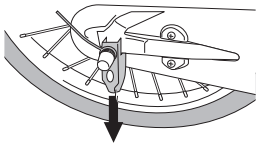
①補助車の支柱基部にあるボルトを工具（6mmのアーレンキー）でゆるめてください。



②支柱からボルト、ワッシャー類を引き抜き、補助車側の支柱を下方向から取り外してください。

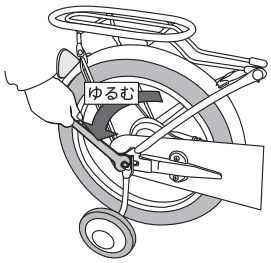


③自転車側に支柱の基部が残った状態になり、補助車無しでの練習走行が出来るようになります。（この状態でスタンドの取付はできません。）

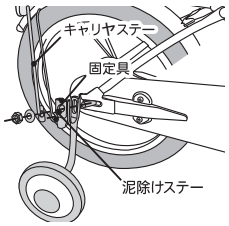


タイプB　スパナでハブナットを締めるタイプの場合

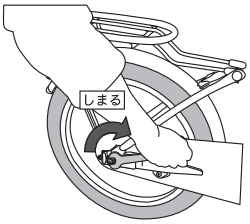
①後輪ハブ軸のナットを工具(15mmのスパナ等)でゆるめ、ナットとワッシャーを取り外してください。



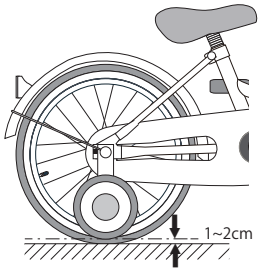
②次にキャリヤステー、泥除けステーをハブ軸から取り外してください。※車種により各ステー類がない場合もあります。

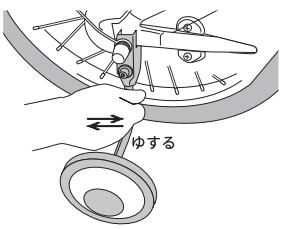


③内側から➡泥除けステー➡キャリヤステー➡ワッシャー➡ナットの順に取り付けてください。



再度補助車を取付ける際は、タイプAタイプBともに外した方法と逆の手順で取り付けを行い、確実にボルト及びナットを締め付けてください。
その際、タイヤに十分な空気が入っているかを必ず確認してください。
取付時の補助車の取付け高さは、地面（水平面）から1～2㎝ほど高くなる位に固定し、使用前に必ずがたつきがないかを確認してください。



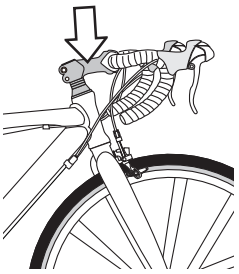


強制
※補助車を外してスタンド等を取り付ける場合は、支柱基部を外す必要があります。スタンドの取付けや補助車の取外しについては自転車販売店にてご相談ください。

ー スポーティ車（マウンテンバイクルック車など）の調整･取扱い ー

■アヘッド式ステムの取扱い

アヘッド式ステムは、主にスポーツタイプの自転車に多く使われているステムで、取付や調整の方法が一般用自転車のハンドルポストとは異なります。



・アンカーボルト

ハンドル部のガタつきを調整するボルトです。調整が必要な場合は、ステムが左右に動く程度までクランプボルトをゆるめてから、アンカーボルトを回して調整してください。

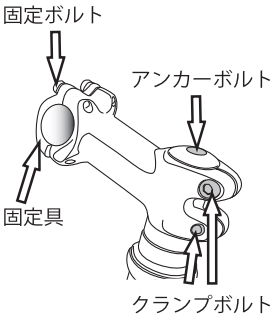
強く締めすぎると破損の恐れがありますので注意してください。

・クランプボルト

ホークコラム（前ホーク）にステムをしっかりと固定する為のボルトです。

・固定ボルト/固定具

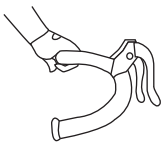
ステムにハンドルバーを固定するための部品です。



■ドロップハンドルの取扱い

ドロップハンドルは高速走行や長距離のサイクリングに適したハンドルです。走行条件により握る位置を変えることで疲労を最小限に抑える事が出来ます。

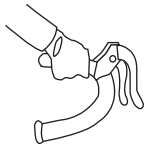
A



A

平地で舗装された道をゆっくり走るときは、軽くハンドルバーの上を握ってください。

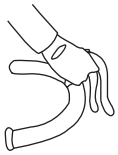
B



B

少し悪い道やゆるい上り坂、または 15~20 km/h 程度のスピードで走るときはハンドルバーの横を握ってください。

C



C

20km/h 以上のスピードで走行するときや、急な上り坂または向かい風のときは、ブレーキレバーのブラケット部を握ってハンドルを引き付けるようにします。

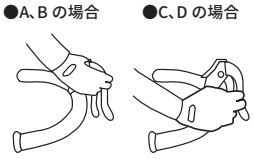
D



D

高速で走るときや急な上り坂など、ペダルを強く踏む場合はハンドルバーの下を握ってください。

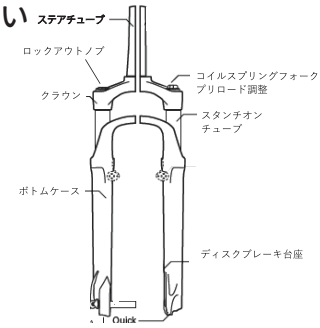
それぞれのハンドルポジションの時、左図の様なブレーキレバーの持ち方をして下さい。



※ブレーキ補助レバーが取り付けられている場合は、Aの位置の時のみそれを用いて制動する事ができます。

※お子様や初心者の方は､使いなれるまで十分に練習をしてください。

■サスペンションホークの取扱い



一部のスポーツ車にはサスペンション付きフロントホークが装着されている物があります。正しく使う為に以下の点をご注意ください。

警告

・サスペンションホークは絶対に分解しないでください。
部品が勢いよく飛び出す事があります。

・禁止の警告ステッカーが貼られている場合、ジャンプや急こう配のダウンヒル等での使用はしないでください。こうした指示を無視してお使いになると、事故やサスペンションシステムの故障の原因となるだけでなく、保障の対象外となります。
・自分の技量の限界を把握し､決して無理な乗り方はしないでください。
・前後の車輪を回転させて、両輪とも正確に中心に位置し、サスペンションシステムやブレーキに接触していないことを確認してください。
・前後の車輪をクイックレリーズレバーで固定している場合は、すべてのレバーやナットが適切に締め付けられている事を確認してください。
・地面で自転車をバウンドさせ、緩んでいるところがないことを目と音で確認してください。

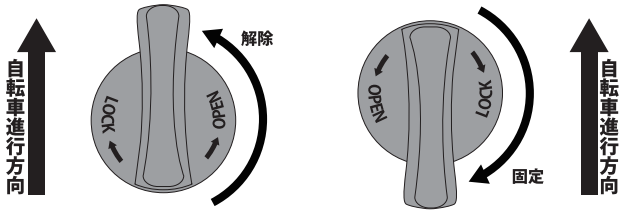
・ホークをダイブさせた状態で、タイヤとホーククラウン下部とのすき間が1㎝以上あることを確認してください。

○プリロード調整



ばねのプリロード（余荷重）を調整することにより、乗員の体重や乗車スタイルに合わせてホークを調整できます。設定するのはコイルばねの硬さではなく、ばねの余荷重です。これにより、乗員が着座した時のホークのサグ（沈み）が抑えられます。プリロードアジャストノブを時計回りに回すと強まり、反時計回りに回すと弱まります。

○ロックアウトの扱い方



ロックアウトの機能は、ノーズダイブの様な状況の防止と、登り等での力のロスを防ぐ効果があります。

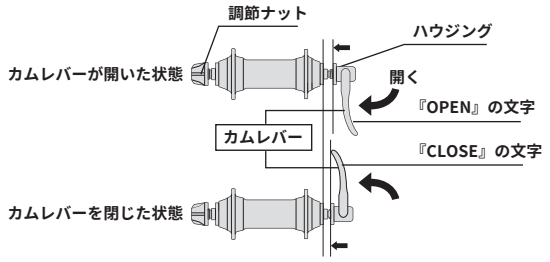
警告

衝撃の多い地形での走行中、つまりサスペンションが非常必要な時は、絶対に「ロックアウトのロックの状態」に設定しないでください。もしロック状態にしたままそのような状況で走行した場合、高荷重下での衝撃により、ショックが破損する危険性があります。これはまた、事故、怪我、さらにはライダーの死亡につながる可能性があります。

ー スポーティ車（マウンテンバイクルック車など）の調整･取扱い ー

■クイックレリーズの構造

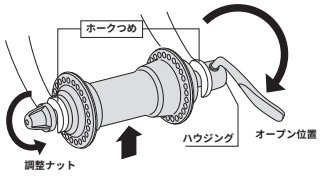
レバーがカム機構となっており、このカムレバーを閉じるとハウジングと調整ナットが内側に動きます。この力によりフレームに車輪を固定しています。



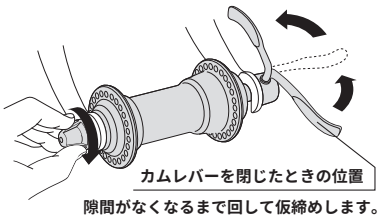
禁止 **フレームに車輪を固定するとき、カムレバーを回して締め付けないでください。クイックレリーズのカム機構が動かなくなり、車輪の固定が不完全になり非常に危険です。**

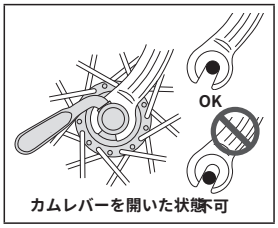
■クイックレリーズの操作

・ロックナットとクイックレリーズの調整ナット及びハウジングの間に、エンド (ホークつめ) が簡単に入るまで、調整ナットを下図の様にして回して緩めます。



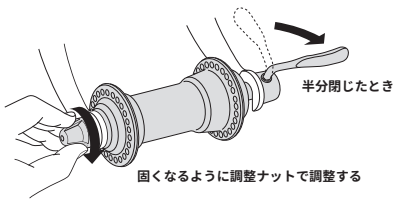
・カムレバーを開いたままにして、エンド (ホークつめ) とクイックレリーズの調整ナットとハウジングの隙間がなくなるまで調整ナットを下記左図のように回して締めます。なお、調整ナットの調整をするときのカムレバーの位置は、カムレバーを閉じたときの位置を想定して、下記右図に示す位置で行うのが理想です。

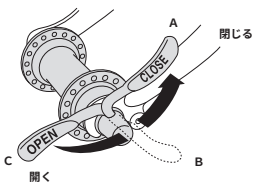




警告 **クイックレリーズハブは、車輪の脱着には大変便利に出来ていますが、使用を誤ると非常に危険なものになります。クイックレリーズハブの使用方法をよく理解された上でお取り扱いください。解除している状態では絶対に自転車に乗車しないでください。車輪が外れてしまい危険です。**

・カムレバーが半分くらい閉じたときに固くなる様に調節ナットで調整し完全にカムレバーを閉じてください。カムレバーを閉じるとき、手のひらが多少痛くなる程度の力で絞めてください。(トルク値 : 5.0 ～ 7.5N・m)

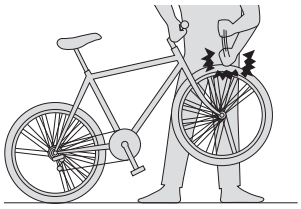


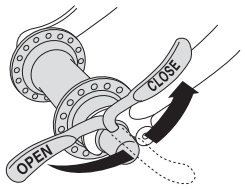


警告 **カムレバーをAの位置まで操作したときに十分固定出来る事が重要です。もし、カムレバーが固すぎたり、緩すぎて固定が十分でないときは、危険ですから調整ナットを回して再調整してください。**

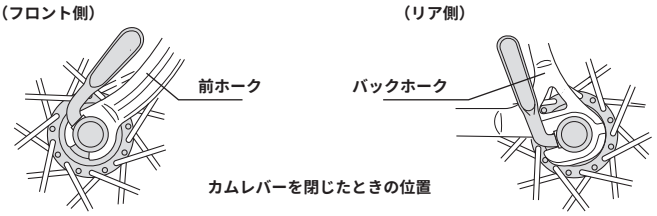
■クイックレリーズハブの取扱い

・車輪はしっかり固定されていますか？自転車を持ち上げ、タイヤを上から強く叩いたとき車輪がしっかり固定されているかどうか。





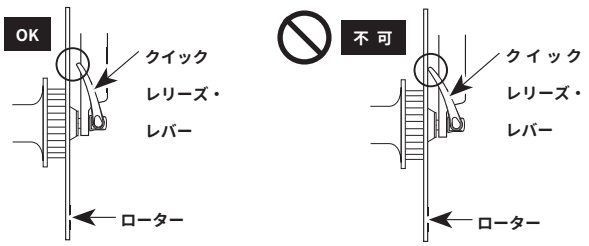
・クイックレバーが『CLOSE』のマークが見える位置に閉じられていますか？もし、クイックレバーが『OPEN』の位置になっている場合は車輪が外れる恐れがあり大変危険です。必ず乗車前に点検してください。
・車輪の中心線と前ホーク、フレームの中心線を合わせてください。
・カムレバーは前車輪、後車輪とも乗車して左側になる様にしてください。
・カムレバーを固定するときのカムレバーの位置は前ホークまたは、バックホークに平行に沿わせてください。
・カムレバーの固定の確認



・ローター対応ハブのクイックレリーズ・レバーの位置

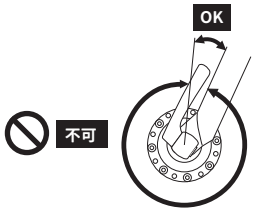
・図 1 の様にクイックレリーズ・レバーをローター側にセットし、クイックレリーズ・レバーをいっぱいに締めてローターと干渉しない事を確認してください。ローターと干渉する場合は、ローターと反対側にセットしてください。

【図 1】

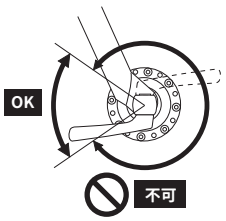


・クイックレリーズ・レバーは図 2 の様にホークを沿わせるか、図 3 の様に進行方向後ろ向きの範囲にセットしてください。走行中にプッシュや岩等にレバーが接触し突然解除され車輪が外れる恐れがあるためです。
・また、フロントホークとクイックレリーズ・レバーの干渉に注意してください。この干渉によって車輪の固定が不十分の場合は、自転車に乗っている間に車輪が自転車から外れ、重症を負うことがあります。

【図 2】
レバー：
自転車を前から見て右側



【図 3】
レバー：
自転車を前から見て左側

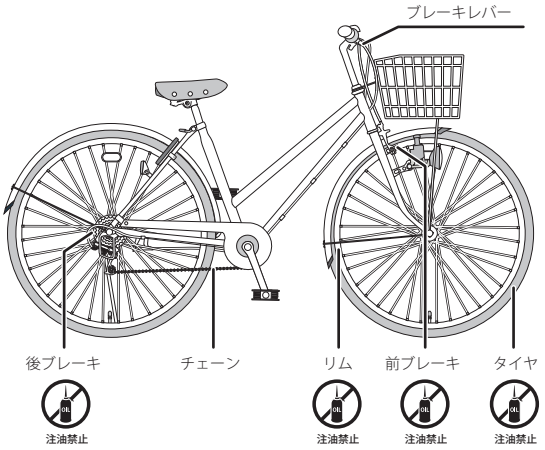


注油について

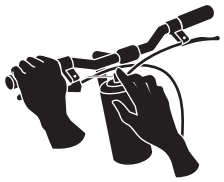
ご注意

・リムやブレーキなどの制動面には油を注さないでください。ブレーキが効かなくなります。
・タイヤの部分に油をつけないでください。ひび割れ等劣化の原因となります。
・チェーンには油をつけ過ぎないでください。つけ過ぎた油は拭き取ってください。ホコリが付き寿命が短くなります。
・ブレーキレバーのワイヤー固定部に注油を怠らないでください。

フレームヘッド回転部、ハブ、ペダルなどにはグリスがつまっていますので注油は不要です。販売店での定期整備の時にグリスアップを行ってください。



注油箇所


1．ブレーキレバー (前後)


2．チェーン


3．リヤディレーラ(後変速機)


4．フロントディレーラ(前変速機)

お手入れと保存

■ 日常のお手入れ

●乾いた布やブラシで泥、土、ホコリを落としてください。
●雨など水にぬれた時は、よく乾燥させた後、上図の箇所に注油してください。
●塗装部 (フレーム等) は、乾いた布でよく拭き、自転車専用のワックスをかけ、乾いた布でよく拭き取ってください。
●メッキ部は、乾いた布でよく拭いた後、「錆止め油」または「機械油」で拭き余分な油を拭き取ってください。
●錆びやすい場所 (浄化槽付近・海岸　等、湿気の多い場所) に置く時はお手入れの回数を増やしてください。

■ 注意

●シンナーなどの有機溶剤は使用しないでください。
●回転部 (ギヤ、車輪、チェーン等) には手を触れないでください。
●サドル、リム、にぎり、ブレーキレバーには、ワックスをかけないでください。

■ 日常の保管

●雨のかからない乾燥した場所に保管してください。雨のかかる所では、市販の「サイクルカバー」を使用してください。

■ 標準予備部品

●ブレーキワイヤーやブレーキパッド等はお買い上げ店に自転車を持参の上自転車の適合したものに取替え修理してください。
●タイヤ・チューブについてはサイズをご指定の上、お買い求めください。
●その他のバッテリー等の予備部品についてはお買い上げ店にご相談の上純正品をお使いください。

こんな時はどうする？

■ 転倒したら

●前ホーク、ハンドルが変形する事があります。自転車を横から見て調べてください。
●ハンドル、ブレーキレバー、ペダル、ディレーラー (変速機) などをぶつけた場合は、変形や損傷などに注意してください。

■ パンクしたら

●パンクしたまま乗り続けますと、リム、タイヤ・チューブを破損させます。必ず降りて押してください。自転車販売店で修理してください。

【パンクの原因は】

・クギ、ガラス破片などを踏んだ時。
・道路の溝に落ちたり、段差などに乗り上げた時。
・空気圧が不足の時

★注意深い使用で避けられるものです。

■ 交通事故の場合

●万一交通事故を起こした場合は、相手が歩行者、自転車、自動車を問わず応急処置の後、すみやかに警察に通報してください。事故の処理などの一切は、警察の指示に従ってください。

■ ブレーキの故障やブレーキワイヤーが切れた場合

●ブレーキが効かない状態での走行は大変危険です。必ず、降りて押してください。近くの自転車販売店で修理してください。

■ 異常を感じた時

●日常点検及び走行中に異常を感じた時は、すみやかに自転車販売店で点検整備を行ってください。

■ 自転車の廃棄について

●自転車を廃棄する時は、お住まいの市町村で決められたルールに従って適切に処分してください。決して駅前等に放置しないでください。

■ 保険に加入しましょう

●万が一のために対人対物賠償保険に加入しましょう。

交通ルールを守りましょう

自転車で道を走る時に必要なルールです。まず、これだけは覚えておきましょう。
小さなお子様の場合は、保護者の方が付き添いましょう。

禁止

並走の禁止
(携帯電話などの)ながら運転はしない
酒酔い運転はしない



禁止

荷物を積み過ぎない
駐輪禁止の場所に自転車を止めない



禁止

リフレクターは汚れていたり破損したまま乗らない

禁止

２人乗りはしない

※ただし子供乗せを取付けた自転車に６歳未満の子供を乗せる場合を除く。



禁止

ジグザグ運転はしない



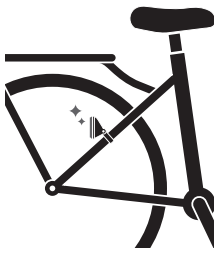
指示

夜間及びトンネル内を走行す時は、必ずライトを付ける事。



指示

リヤリフレクターを(後部反射器)を必ず付ける事



指示

リヤリフレクターは(後部反射器)壊れていないか確認



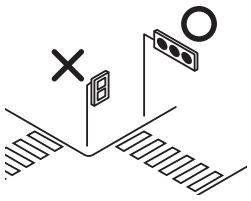
指示

盗難防止のため、鍵をかける事



指示

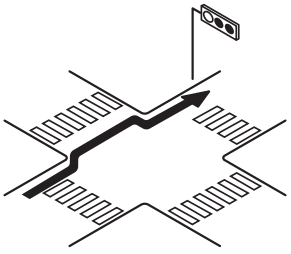
自転車は車両用信号に従う事



※ただし「歩行者・自転車専用」と表示してある場合、歩行者信号に従い自転車横断歩道を使用しましょう

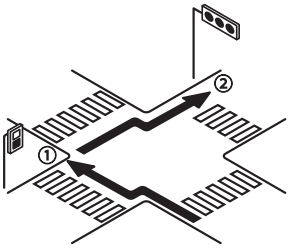
指示

正面の信号が青の時は矢印の様に進む事



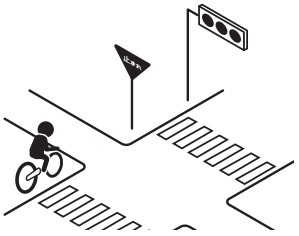
指示

信号を右に曲がる時は矢印の様に二段階右折をする事



指示

交通標識を守る事



交通ルールを守りましょう

自転車で道を走る時に必要なルールです。まず、これだけは覚えておきましょう。
小さなお子様の場合は、保護者の方が付き添いましょう。

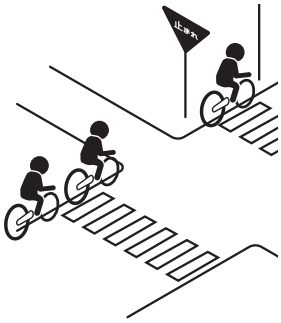
指示

発信する時、後方・前方の安全を確かめてから進む事



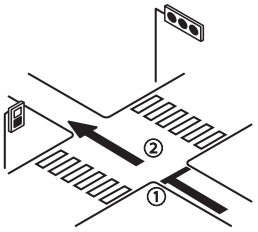
指示

車道の左側を必ず一列に進む事



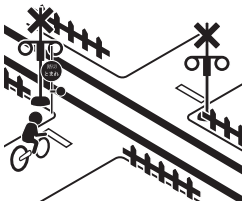
指示

狭い道から広い道に出る時は一時停止をする事



指示

踏切では必ず一時停止をし、左右の安全を確かめて渡る事



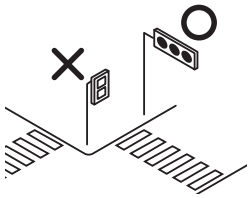
指示

盗難防止のため、鍵をかける事



指示

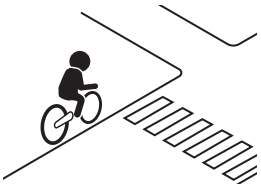
自転車は車両用信号に従う事



※ただし「歩行者・自転車専用」と表示してある場合、歩行者信号に従い自転車横断歩道を使用しましょう

指示

自転車通行可の歩道を通行する時は、車道寄りを通行する事。又、徐行や一時停止等して歩行者を優先しながら進行する事。



指示

一時停止する時は、右腕を斜め下に出しましょう。



指示

左折する時は、右腕のひじを垂直に上に上げましょう。



指示

右折する時は、手の平を下にして水平に出しましょう。



・主な道路標識と意味



点検・チェックリスト

❗ 点検時期外でも異常を感じた場合、点検・調整を受けてください。

※書き方・・・点検・・・良好○　　不備×

点検項目		2か月以内		1年ごと		1年ごと		1年ごと		1年ごと		1年ごと	
		点検	調整	点検	調整	点検	調整	点検	調整	点検	調整	点検	調整
1	大きさは乗り手の体格に合っているか												
2	サドルにまたがって、足が地に届くか、またサドルの固定は確実か												
	●ハンドルの高さは適当か、また固定は確実か ●乗る人の上体が少し前に傾くように、サドルの前後の位置が調整されているか												
	●1～2は幼児・お子さまにご留意下さい。												
3	フレーム・前ホークに変形や亀裂などはないか												
4	ヘッド・ハンガー小物にガタ・磨耗はないか												
5	ドロヨケはしっかりと取付けてあるか												
6	キャリヤ(荷台)は偏っていないか、またしっかり取付けてあるか												
7	スタンドの取付と作動はよいか												
8	タイヤの空気の入り具合は適当か、タイヤはすり減っていないか												
9	ペダルはクランクと直角になっているか												
10	クランクに曲がりはないか、ギヤクランクは滑らかに回転しガタはないか												
11	ペダルはなめらかに回転するか												
12	車輪のふれ・スポークのゆるみ・軸部のガタはないか												
13	ブレーキゴム類、シュー・パット・ライニングなどすり減ってないか												
14	レバーの感覚は正常で前後のブレーキはよく効くか												
15	チェーンのたるみ・張りは適当か												
16	発電ランプは点灯するか、ネジはゆるんでないか												
17	リフレクターはこわれていないか、汚れていないか												
18	ベルはよく鳴るか、ゆるんでないか												
19	鍵の取付と機能はよいか												
20	ギヤチェンジは正確に作動するか、またチェーンが外れないか												
21	フリーホイールの回転と注油はよいか												
22	チェーンケースの形状と取付は良いか												
	定期点検・調整を実施した販売店並びに年月日	年月日	印	年月日	印	年月日	印	年月日	印	年月日	印	年月日	印

●点検整備のお願い

(定期点検・整備)

■お買い求め後2か月以内に第1回目を、「第2回目」はその後1年後とに実施して下さい。なお、点検・整備はお早めに販売店(組立整備資格者)に依頼される事をおすすめします。(有料)
■異常を感じた場合上記の点検を実施し、調整・修理して下さい。

＜品質保証規定＞

1．保証期間

特別保証１	・フレーム体及び前ホーク (サスペンションホークは除く)	お買い上げ日から起算し５ヵ年間
特別保証２	・リチウムイオンバッテリー (バッテリーの状況により対象外となる場合がございます。)	お買い上げ日から起算し２ヵ年間
一般保証	・フレーム体、前ホーク以外の部品　・サスペンションホーク　・充電器 (保証対象外部品 (消耗部品) は除く)	お買い上げ日から起算し１ヵ年間
保証対象外部品 (消耗部品)	タイヤ、チューブ、ブレーキ類の摩耗部品 (通常の摩耗または疲労)、かご、バック、ドレスガード等の付属品、 ブレーキワイヤー、変速ワイヤー、ワイヤー取付金具コード類及び使用者がご自分で取り付けた部品。	

2．保証できない事項

ア．使用者の使用上の不注意によるもの。
イ．衝突、転倒、道路の段差等の乗り上げ、または溝等に落ちて生じたもの。
ウ．法令の違反行為によって生じたもの。（最大積載オーバー、二人乗り等）
エ．保守、整備不良または間違いにより生じたもの。
オ．当社が指定する定期点検調整を実施しなかった場合。
カ．使用者が構造、機能を改造または変更したため生じたもの。
キ．酷使または一般に自転車が走行しない場所での走行（道の無い山岳、ツーリング道の無い土手の傾斜面等）により生じたもの。
ク．レンタサイクルなど不特定多数で使用される場合。
ケ．地震、落雷、火災、水害、その他人災、天災、地変によって生じたもの。
コ．手入れ不十分、保管場所の不備及び時の経過により生じた塗装面、メッキ面、その他これに類する不具合及びプラスチック部品等の自然退色。
サ．部品の通常の摩耗または疲労と認めたもの。（タイヤ、チューブ、ブレーキ類の摩耗部品）
シ．釘、ビン、ガラス、切削くず、鋭利な石ころ等で生じるパンク。
ス．一般に機能上の影響のない感覚的現象 (音、振動等)
セ．本保証書に示す条件以外の費用等。
ソ．この保証書は盗難保険ではありません。盗難保証書及び防犯登録については販売店にご相談下さい。

3．保証修理を受ける為の条件及び手続き

・保証修理を受けるためには次の事柄をご了承願います。
・保証修理を受ける場合、保証書と自転車をご持参ください。
・なお、保証書の提示がないと保証修理は受けられません。保証書は字句などを書き換えた場合は無効とします。
・ご贈答、転居及び他に譲渡する場合についてはお買い上げ店にご相談下さい。
・お買い上げの自転車は初期点検（2 カ月以内）その後 1 年ごとに定期点検を受けてください。
・この定期点検を受ける際には自転車と定期点検チェックリストをご提示ください。定期点検、調整は有料です。
・保証書は日本国内で使用される自転車で、車体ナンバーの刻印があるものに適用されます。海外に持ち出す場合はその時点で打ち切りになります。
・保証修理に関するお問い合わせは、お買い上げ店でご相談ください。
・修理に関して出張修理の依頼を受けたときは、出張費を請求する場合があります。

4．部品の保証期間

● 保証期間経過後でも機能を保持するための補修機能部品は、一定期間お買い上げ店又は弊社に保有しております。但し新型が売り出された場合等は、代替部品にて対応しておりますので予めご了承願います。

5．その他

● この保証書は、本書に明示した期間、条件に基づき保証修理をお約束する物です。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
● 保証期間経過後の修理等について不明な点はお買い上げ店又は弊社にご相談ください。

販売店へのお願い

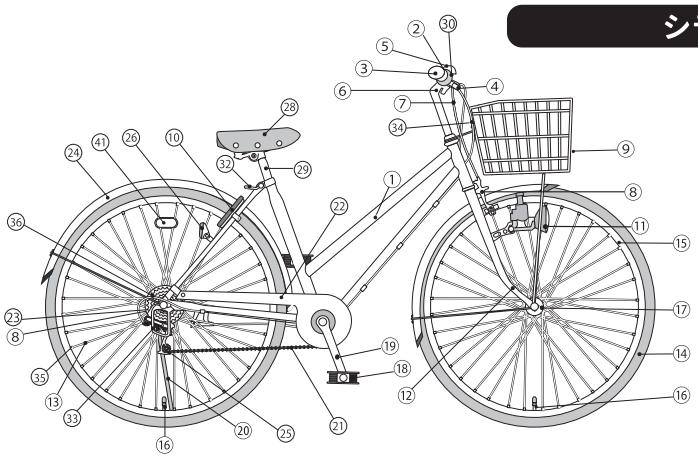
● 品質保証書を発行する際は、保証書の各項目をご記入お願いします。
● (控) は貴社の控えとして必ず大切に保存してください。（保存期間は 10 年です）
● (保証書) の販売店名欄に貴社名を記入捺印してお客様に必ずお渡しください。

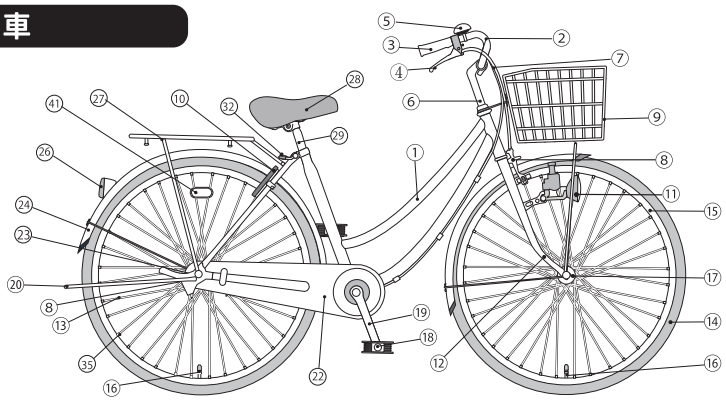
カギのＮＯ．控：

※製品に対してのお問い合わせ、ご相談は保証書に記載された販売店もしくは弊社へご連絡ください。

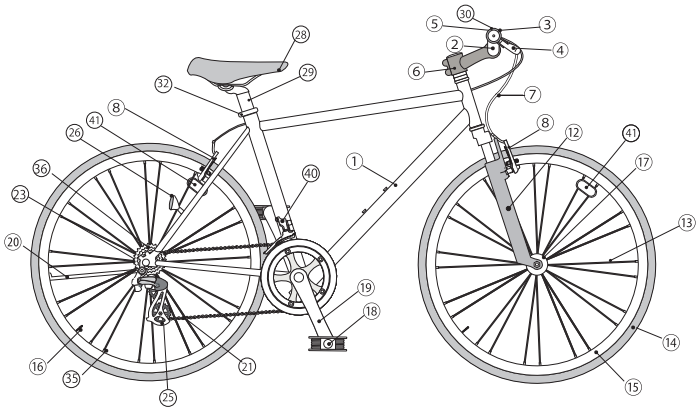
自転車各部の名称

シティ車

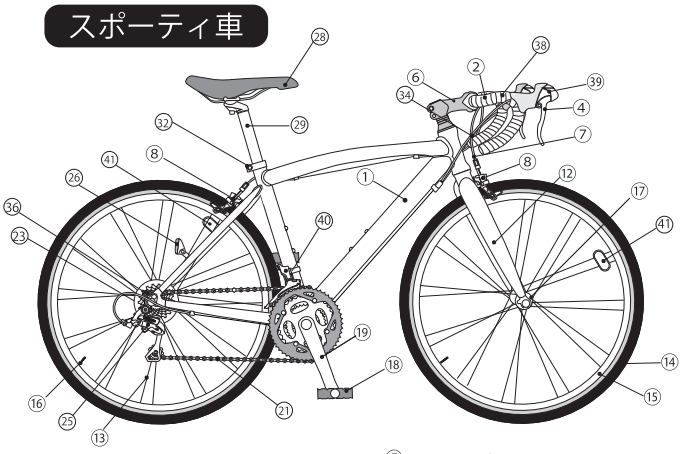




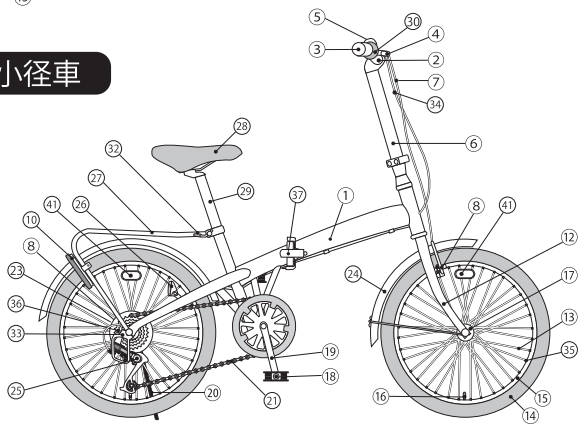
マウンテンバイク類型車 (MTB 類型車)



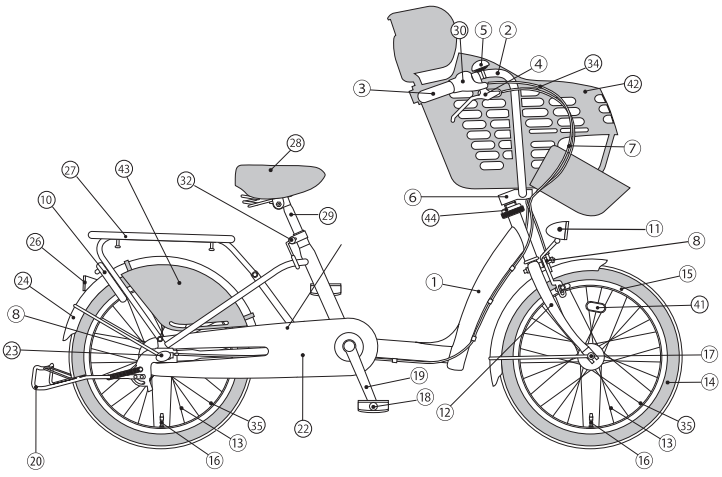
スポーティ車



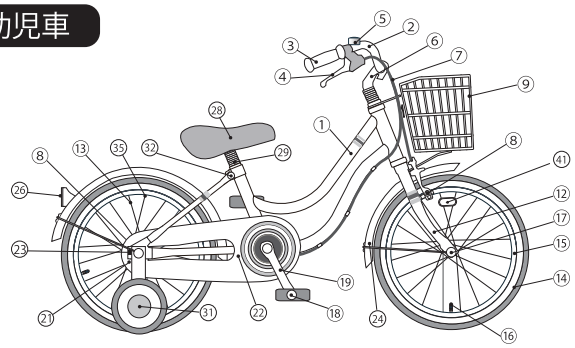
小径車



幼児座席付き自転車（幼児2人同乗対応車 ）



幼児車



各部の名称

1	フレーム	11	ランプ	21	チェーン		
2	ハンドル	12	前フォーク	22	チェーンケース		
3	グリップ	13	スポーク	23	後ハブ		
4	ブレーキレバー	14	タイヤ	24	泥除け	31	補助車
5	ベル	15	リム	25	後変速器	32	シートピン
6	ハンドルポスト	16	タイヤバルブ	26	リアリフレクター	33	変速機ガード
7	ブレーキワイヤー	17	前ハブ	27	リアキャリヤ	34	変速ワイヤー
8	ブレーキ	18	ペダル	28	サドル	35	ニップル
9	前カゴ	19	ギアクランク	29	シートポスト	36	後輪ギヤ
10	錠前	20	スタンド	30	変速レバー	37	折畳レバー

38	バーテープ
39	デュアルコントロールレバー
40	前変速器
41	サイドリフレクター
42	幼児用同乗器
43	ドレスネット
44	前車輪旋回抑制機構(ハンドルロック)

memo

―【BAAマーク付き車両について】―

● 乗る人の安全を守るために生まれた「自転車安全基準」。

BAA マークの「自転車安全基準」は、乗る人の安全を第一に考え、“安全・安心で環境に優しい自転車”の供給に向けて一般社団法人自転車協会が制定した自主基準です。
JIS(日本産業規格) をベースとしながら、JIS にない要件※1 や JIS より厳しい基準値※2 を定めるなど、より安全性を重視した基準となっています。さらに、製品の不具合情報を参考に基準の改正を継続的に行うことで、自転車事故を未然に防ぐことに役立てています。

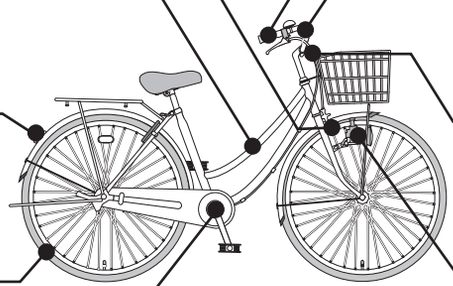


※1 (例) 前照灯に関しては自動点灯または手元操作可能な前照灯に限定　等

※2 (例) 前後ブレーキの制動距離を別々に測定／ブレーキの効き過ぎの規定を追加／ブレーキレバーの固定強度試験実施 / ブレーキレバーの転倒強度試験実施／ブレーキワイヤの繰り返し強度試験実施／前照灯の照度を JIS の 2 倍に規定 / 主要ねじ部品の強度を規定　等

● BAA は約 90 項目もの厳しい検査を実施しています。

主な型式検査



ブレーキ制動性能
晴天時だけでなく雨天時でも安全円滑に停止できるよう、前後ブレーキの制動力を別々に検査。

フレーム
衝撃強度試験、疲労強度試験を行い、破損や著しい変形、ゆがみが生じないか検査。

リフレクター
夜間等の安全を確保するために、フロント、リア、ペダル、側面２ヶ所にリフレクターを装備。色や反射性能などを検査。

車輪
縦振れ、横振れ試験、車輪の静過重試験、タイヤとリムとの嵌合強度試験に加え、固定力の確認を行い、車輪の強度や品質を検査。

駆動部
静荷重試験と動荷重試験を行い、クランクの強度を検査。乗員の人体に危害を及ぼすおそれがある、とがり・ばり等がないかも確認。

グリップ
グリップが容易に抜けたり回転したりしないかを検査。

ハンドル
走行中にハンドルバーが緩んだり、ハンドルバーが折れたり、曲がったりしないよう、強度試験を実施。

ブレーキワイヤー
引張強度試験や繰返し強度試験 (15kg の重りを付けて 10 万回上下させる) でブレーキワイヤーの強度を検査。

前照灯
自動または手元操作で点灯できる前照灯を装備。明るさも検査。

ねじ
衝撃強度試験、疲労強度試験を行い、破損や著しい変形、ゆがみが生じないか検査。

これらの厳しい検査をクリアした製品にのみ BAA マークが貼付されています。

「一般社団法人自転車協会から利用者の皆様へのお知らせ」

記

BAA マークが貼付された自転車は、安全で長持ちする自転車を目標に、一般社団法人自転車協会が定めた自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車です。万が一製造上の欠陥で事故が発生した場合は、製造・輸入事業者の責任で補償致します。当会は直接利用者の皆様への補償を致すものではありません。

BAA の詳しい内容については
一般社団法人自転車協会の WEB サイトにて
ご確認ください。

自転車安全利用五則を守りましょう。

◎ 自転車安全利用五則１「車道が原則、左側を通行歩道は例外、歩行者を優先」

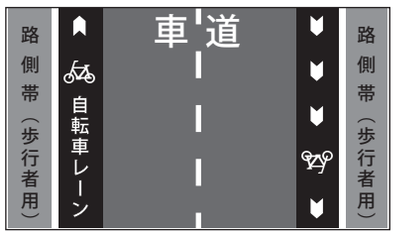
●自転車で車道を通行するときのルール

・車道通行の原則

自転車は、「軽車両」と位置付けられ、自動車と同じ「車両」の一種です。歩道又は路側帯(＊)と車道の区別のある道路では、原則として、車道を通行しなければなりません（法第17条第１項）。
なお、車道に自転車レーンがある場合はそこを通らなければなりません。

(＊)路側帯とは、歩道のない道路にある、歩行者が通行するために、道路の側端に白線で区画された場所です。

[反則金]　6,000円（通行区分違反）/5,000円（通行帯違反）



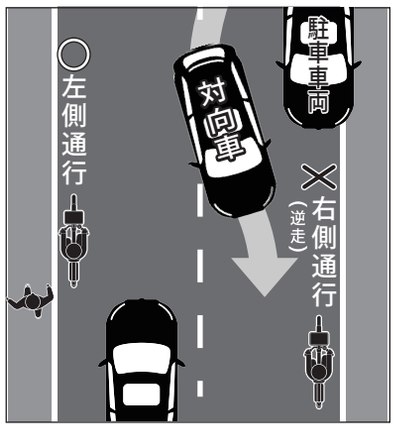
・左側通行の原則

自転車は、基本的に道路の左側端に寄って通行しなければなりません（法第17条第４項、第18条第１項）。

＊逆走（自転車で道路の右側を通行すること）

・駐車車両等の障害物があるときや、見通しの悪いカーブで、対向車から自転車が見えず、正面衝突する危険がある
・自転車が車道の右側を通行していると、交差点で自転車が自動車の左方から飛び出してきたときに、自動車の発見が遅れ、ブレーキをかける余裕がないといったことから、大変危険です。

[反則金]　5,000円（通行禁止違反）/歩行者妨害：3,000円（路側帯進行方法違反）



●自転車で歩道を通行するときのルール

・歩道を通行できるとき

自転車は車道通行が原則ですが、次のようなときは、普通自転車は歩道を通行することができます（法第63条の４第１項）。

① 道路標識・道路標示で歩道を通行することができるとされているとき

② 13歳未満の方若しくは70歳以上の方又は一定の身体障害を有する方が運転するとき

③ 車道又は交通の状況に照らして、自転車の通行の安全を確保するため、自転車が歩道を通行することがやむを得ない(＊)と認められるとき

(＊) 道路工事や連続した駐車車両等のため車道の左側を通行することが難しいときや、著しく自動車の交通量が多い、車道の幅が狭いなど、通行すると事故の危険があるときをいいます。

[反則金]　3,000円（自転車道通行義務違反）

自転車が歩道を通行可能な表示



・歩道を通行するときのルール（原則）

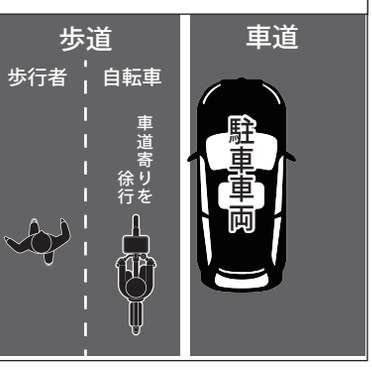
普通自転車で歩道を通行することができる場合に、歩道通行をするときは、歩道の中央から車道寄りの部分を徐行(＊)しなければなりません。（法第63条の４第２項）

また、普通自転車の進行が歩行者の通行を妨げることとなるときは、一時停止しなければなりません。

(＊) 徐行とは、直ちに停止することができるような速度で進行することをいいます。

[反則金]　3,000円（歩道徐行等義務違反）

車道左側を通行困難な状況

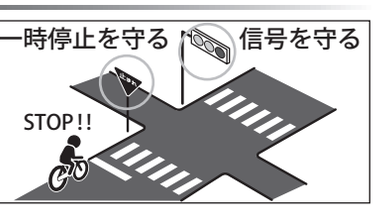


※ハンドル幅が600mmを超える自転車は普通自転車に概要しないため、「自転車通行可」の歩道を走行できません。また、地域や自治体、道路標識の内容により自転車専用道路を通行できない場合があります。通行できない場所では自転車を降りて押してください。

◎ 自転車安全利用五則２「交差点では信号と一時停止を守って、安全確認」

・信号は必ず守り、渡るときは安全を確認しましょう。
・一時停止標識のある交差点では、必ず停止線の前で止まって、左右の安全を確認しましょう。

[反則金]　5,000円（指定場所一時不停止等）



自転車安全利用五則を守りましょう。

◎ 自転車安全利用五則３「夜間はライトを点灯」

夜間に自転車乗車の際は、無灯火は他から自転車が見えにくくなるので非常に危険です。
安全のため夜間はライトを点灯し、反射器材を備えた自転車を運転しましょう。



[反則金]　5,000円（無灯火）

◎ 自転車安全利用五則４「飲酒運転は禁止」

体内のアルコール濃度にかかわらず、お酒を飲んで自転車を運転することは禁止されています。
自転車運転者に飲酒をすすめたり、飲酒をした人に自転車を提供したり、飲酒をした人に要求・依頼して自転車に同乗したりする行為も処罰の対象となります。

[飲酒運転の罰則]　５年以下の拘禁刑又は100万円以下の罰金　　[酒気帯び運転の罰則]　３年以下の拘禁刑又は50万円以下の罰金
[酒気帯び運転ほう助に対する罰則]　２年以下の懲役又は 30万円以下の罰金

◎ 自転車安全利用五則５「ヘルメットを着用」

自転車に乗車の際は、年齢に関係なく必ず自転車用ヘルメットを着用してください。自転車用ヘルメットの着用は、道路交通法で定められた努力義務となります。

安全ルールを守る（違反行為）

■ イヤホン/ヘッドフォン禁止
外部の音が聞こえない状態はNG

■ 傘さし運転禁止

[反則金]　5,000円（公安委員会遵守事項違反）

■ 信号を守る
信号を必ず守る。「歩行者・自転車専用」信号機のある場合はこの信号に従う。

[反則金]　6,000円（信号無視）

■ 交差点での一時停止と安全確認
一時停止の標識を守り、狭い道から広い道に出るときは徐行する。常に安全確認を忘れずに。

[反則金]　5,000円（指定場所一時不停止等）

■ ながらスマホは禁止
運転中に操作、画面を注視するなどを禁止。(自転車に固定具で付けて見てもNG)

[反則金]　12,000円（携帯電話使用等・保持）
[危険を生じさせた場合の罰則]
1年以下の拘禁刑 または 30万円以下の罰金

■ 二人乗りは禁止
6 歳未満の子供を 1 人乗せるなどの場合を除き、二人乗り禁止。

※都道府県公安委員会規則の規定で認められている場合を除く

[反則金]　3,000円（軽車両乗車積載制限違反）

■ 並進は禁止
「並進可」標識のある場所以外では並進禁止。

[反則金]　3,000円（並進禁止違反）

■ 夜間はライトを点灯
夜間は前照灯及び尾灯 (反射器材)をつける。

[反則金]　5,000円（無灯火）

■ 飲酒運転および酒酔い運転は禁止
・アルコールの影響により正常な運転ができないおそれがある場合。

[罰則]　５年以下の拘禁刑又は100万円以下の罰金

■ 酒気帯び運転も禁止
・血中濃度が0.3mg/ml又は呼気中濃度が0.15mg/l以上の場合。

[罰則]　３年以下の拘禁刑又は50万円以下の罰金

■ 酒気帯び運転のほう助も罰則
・自転車の飲酒運転をするおそれがある者に酒類を提供し、その者が自転車の酒気帯び運転をした場合、酒類を提供した者に罰則。
・運転者が酒気帯びである事を知りながら、自転車で自分を送るよう依頼して同乗し、自転車の運転者が酒気帯び運転をした場合、同乗者に罰則。

[罰則]　２年以下の懲役又は 30万円以下の罰金

※ 施錠について
錠前は盗難予防に絶対的なものではありません。
目の届く管理された場所での駐輪や、他の鍵との併用をお勧めします。

アサヒサイクル 株式会社
本社・工場　〒587-0042 大阪府堺市美原区木材通4丁目1番11号
TEL.072-362-8181　FAX.072-362-0888
関東営業所　〒349-1148 埼玉県加須市豊野台1丁目317-6 ロジポート加須 118号室
TEL.0480-25-1055　FAX.0480-25-1056
ホームページ　https://asahicycle.co.jp
X ▸　Facebook ▸　Instagram ▸

2026.11.改定